

(一) 事 業 報 告 書

1. 基礎研究

当法人は、日本の胸部外科領域において心臓血管外科学発展の礎を築いた故榊原任等が、我が国循環器医学の画期的進歩を促すために1967年に設立した公益法人である。当時故石坂泰三氏ら経済団体連合会関係者の支援を得て、1968年に先進諸国に劣らぬ研究施設を開設し、これを全国の優秀な研究者に「公募研究助成」とともに当時最新鋭の機材を備えた研究施設活用の途を提供して循環器医学に関する研究を支援してきた。本研究助成は、2017年度までに50回、延419件（助成総額約5億9000万円）の研究支援を実施した。

2003年度に細田瑛一理事長（当時）は、全国の循環器研究の指導者から循環器の基礎及び臨床研究を行う40歳未満の研究者に研究費を助成する必要性に強い要望があったことから「榊原記念研究助成」を始め、現在に至っている。毎年公募される研究は、研究委員により審査採択され、その研究成果は、学術研究雑誌等で広く世界に発信されるとともに、当財団事業報告書や研究業績集に収蔵・記載している。

当財団としては、引き続き循環器医学の先駆的研究機関として、若手研究者に対する研究助成と国民の健康増進と福祉の向上に寄与する為、連携する臨床研究施設である榊原記念病院（東京都府中市）や 榊原記念病院附属クリニック※1（東京都渋谷区）にて心臓循環器疾患の患者を国内外から受け入れている。

※1：これまでNSビル（東京都新宿区）にて開業していた「榊原記念クリニック」及び「分院検診センター」は、「榊原記念病院附属クリニック」に改組改称し、旧病院跡地開発プロジェクトにより昨年12月に完成した「榊原記念ビルディング」（東京都渋谷区）内に移転した。

(A) 研究助成

1) 榊原記念研究助成（第22回）

循環器の基礎及び臨床研究を行う40歳未満の若手研究者個人を対象にした研究費の助成活動である。

2003年度より毎年公募し、最大5件を採択。2024年度は助成対象課題を「不整脈：基礎と臨床から」とし公募を行った。永井良三先生（理事）を委員長とする研究委員会の厳正なる審査の結果、5件が採択された（下表参照）。2年の研究期間終了後、「研究成果発表会」および「研究業績集」にて研究の概要を発表する予定である。

第22回（2024年度）榊原記念研究助成金研究題目

研究期間：2024年9月～2026年8月

No.	研究題目	所属	研究者
1	心外膜脂肪と心房細動	大分大学医学部循環器内科 臨床検査診断学講座	安部 一太郎
2	アンチセンス核酸を用いた、心筋症の予後 を改善する新規抗不整脈治療法の開発	京都大学大学院医学研究科 循環器内科学	稲住 英明
3	心房細動患者における心房筋のDNA損傷 と細胞形態学的変化、機能変化、遺伝子発 現の関連性 —心房筋生検による組織学的検証—	佐賀大学医学部 先進不整脈治療学講座	高橋 佑弥

4	リアノジン受容体安定化によるあたらしい CPVT の治療	山口大学医学部 高齢者心不全講座	中村 吉秀
5	心房特異的線維芽細胞の同定と心房細動における働き	国立循環器病研究センター 研究所 心血管老化制御部	吉田 尚史

(五十音順・敬称略)

2) 榊原記念研究助成 研究成果発表会

第20回（2022年度）榊原記念研究助成採択者による研究成果発表会を、第274回日本循環器学会関東甲信越地方会と共催し、以下のとおり開催した。

日 時：2024年12月14日（土）13：00～16：00

場 所：ステーションコンファレンス東京 4階 402A（研究成果発表会）

および 6階 第V会場（第20回記念特別企画講演）（東京都千代田区丸の内1-7-12）

<式次第>

○理事長挨拶

○第22回榊原記念研究助成採択者 贈呈式

○第20回榊原記念研究助成 研究成果発表会

『コロナ感染、コロナワクチンにおける心筋炎、心膜炎に関する研究』

座長：小室一成先生（国際医療福祉大学副学長・東京大学特任教授）

(発表は1題10分、質疑応答は5分)

No.	研究題目	所属	研究者
1	クローン性造血による新型コロナウイルス感染症に伴う心筋炎発症メカニズムの解明	名古屋大学医学部附属病院 循環器内科	由良 義充
2	CTによる新型コロナウイルスおよびコロナワクチンに関連する心臓後遺症の包括的評価法の確立	自治医科大学 附属さいたま医療センター 放射線科	相川 忠夫
3	マウスモデルを用いた COVID-19における心筋炎・心膜炎の病態解析	広島大学 原爆放射線医科学研究所 疾患モデル解析研究分野	三浦 健人

(敬称略)

○第20回記念特別企画講演

第274回日本循環器学会関東甲信越地方会「教育セッションⅡ」

セッションテーマ：『医療 AI 研究プラットフォーム』

座 長：永井良三先生（自治医科大学学長）

Introduction:「内閣府 SIP プロジェクト: 医療ビッグデータシステム・医療 AI の現状と課題」

総合司会：瀧原圭子先生（大阪大学キャンパスライフ健康支援・相談センター特任教授）

講 師：喜連川優先生（情報・システム研究機構機構長、東京大学特別教授）

「近未来の医療データ基盤の構築に向けて一本格的な医療 LLM と医療 LMM がようやく動き出すことになった日本の新しい時代において、臨床医に期待される役割について」

2. 法人本部における研究会活動

当財団には29の研究会があり、循環器医学の進歩を期し学際的、国際的に研究活動を行っている。それぞれの事業報告は以下のとおり。(順不同)

(1) 医療専門職研修教育プロジェクト

(責任者：理事 井口信雄 榊原記念病院附属クリニック院長)

【事業報告】

これまでこのプロジェクトでは全ての医療専門職を対象に国内および海外を含む研修や教育を通して人材育成と専門技能の向上に努めてきた。

国内および海外の医療機関と提携する独自の海外研修プロジェクトは、看護師、薬剤師、臨床放射線技師などの臨床業務や研究に活かすことができ、本邦の専門職教育の推進に多大な貢献が期待される。

これまで累計24名が参加し、各分野で習得した成果をまとめた報告書が提出された。しかし今年度はコロナ禍の影響により、このプロジェクトを十分に進めることができなかった。しかし専門領域における研究や診療レベルの向上が期待でき、現在も参加を希望するスタッフは数多く、早期の再開が望まれる。

(2) 包括的心臓リハビリテーション研究会 (責任者：中山敦子 榊原記念病院循環器内科部長)

【事業報告】

①急性期治療中の心不全患者に対する心臓リハビリテーションの安全性および効果に関する研究、②心臓血管外科術後患者に対する心臓リハビリテーションの安全性および効果に関する研究、③遠隔心臓リハビリテーションの安全性および効果に関する研究、④フレイルを呈する高齢心疾患患者に対する運動療法、⑤慢性腎臓病を合併する高齢フレイル心疾患患者の骨格筋や身体機能に対する運動療法、⑥ SGLT2阻害薬が糖尿病性心臓自律神経障害へ及ぼす影響に関する後ろ向き観察研究。

(3) 高度先進心臓血管研究プロジェクト

(代 表：山崎健二 北海道循環器病院院長・先進医療研究所所長)

【事業報告】

植込み型補助人工心臓 EVAHEART の生体適合性向上の研究活動を継続的に実施する。

①血栓形成と飛散を抑制する送脱血管及び人工血管に関する研究開発、②感染経路であるドライラインとその皮膚貫通部における感染防止の研究開発、③血液侵入を抑えるシール機能と安定駆動する回転翼支持機構の研究開発、を進めた。これらの研究を、北海道循環器病院先進医療研究所を核として、早稲田大学、東北大学、国立循環器病研究センター、サンメディカル技術研究所・EVIが連携して推進した。また生物由来材料を使わない、血漿漏出の少ないポリエステル人工血管を開発した(シリコンコーティングポリエステルグラフト)。

海外展開に関しては、

①中国ではブリッジ使用ならびにDT(永久使用)に追加して小型EVAHEART 2及びチップレスカニューラの薬事承認を得ることができ、中国46大学で計200例の植込みを実施した。2年生存率90%と良好な成績を得た。中国各地の植込み実施施設の拡大・トレーニングを行いさらなる成績向上を図った。

②米国でのHeartMate IIIとの多施設無作為比較試験(RCT)COMPETENCE Trialに関しては、現在治験参画施設22施設を得、44例の植込みを行い第2層目のPivotal studyに移行した。

各治験実施施設より、心尖部直付け型への変更要望が多く挙げられたため、治験を一時中断し一部変更を実施することとした。

③第13回日本心臓弁膜症学会を『弁膜症の深奥を極める～そこから見えてくる心臓～』というテーマのもとに、2023年11月17日（金）～11月18日（土）に会長を道井洋吏先生（北海道循環器病院 心臓血管外科、札幌医科大学 心臓血管外科）、古堅あずさ先生（北海道循環器病院 循環器内科）として札幌プリンスホテル国際館パミールにて開催盛況を得た。

他に、虚血性心疾患、心筋炎、弁膜症、大動脈瘤、心臓リハビリテーション関連の臨床研究を行った。

(4) 心血管病研究プロジェクト（責任者：理事・研究委員 萩原誠久）

【事業報告】

心血管病研究プロジェクトでは、本年度も心血管疾患に関する臨床研究を推進し、学会および研究論文を発表した。これまでに蓄積された不整脈疾患、冠動脈疾患などの研究結果は日本人のエビデンスとして重要なデータとなっている。現在も本プロジェクトが主催、参画した HIJ-PROPER 試験や AFIRE 試験に関して、様々なサブ解析結果の解析が進んでいる。

(5) 榊原・今野カテーテル生検法レジストリー

（代 表：西川俊郎 元東京女子医科大学病理診断科教授
事務局：吉澤佐恵子 東京女子医科大学病理診断科講師）

【事業報告】

カテーテル心筋生検法は、心筋疾患の診断や心臓移植後の拒絶反応評価において有用な手法である。心アミロイドーシスの検討では、免疫染色による病型分類を行い、多くがトランスサイレチン型であった。左室肥大を伴わず偶発的に診断された症例もあり、特に心不全例や高齢者ではコンゴレッド染色や DFS 染色の積極的な施行が重要と考えられた。拡張型心筋症（DCM）の検討では、心臓移植を実施した患者の左室補助人工心臓（LVAD）植え込み前後の心筋組織を比較した。LVAD 植え込み後に EF が改善した症例では、LVAD 植え込み時の心筋細胞肥大が軽度である傾向が示された。組織所見や LVAD 植え込み前後の変化は症例ごとに異なっており、今後の症例蓄積が課題である。また、COVID-19感染およびワクチン接種後心筋炎の心筋生検例は減少傾向にあるが、引き続きデータ蓄積と解析を継続していく方針である。

(6) Heart & Vessels 刊行基金（責任者／編集長：理事・研究委員 萩原誠久）

【事業報告】

Heart and Vessels 誌は、心臓と血管に関する臨床と基礎研究論文を掲載する英文雑誌として1985年に創刊した。創刊当初は季刊発行であったが、1994年から2015年までは隔月刊行、2016年1月からは毎月刊行している。当財団では1985年創刊当初より、編集会議、発刊・編集の支援および事務室の提供を行っており、2024年度も編集会議費と通信費の支援を行った。

(7) 心臓外科手術の安全性向上に関する研究会

（代 表：國原孝 東京慈恵会医科大学心臓外科主任教授）

【事業報告】

心臓手術における成績の向上を目指して、基礎研究、臨床研究、新しい手術手技の開発と導入を支援することを目的に活動を行った。具体的には器材の購入、研究消耗品の購入、さまざま

まな研究費支援、国内外の外科医の招聘などの費用面での支援を行った。各領域に置いてまずまずの成果を残すことができたが、とりわけ「慈恵心臓外科データベース (Jikei Cardiac Surgery Database: JCSD) の構築」、「重症虚血性僧帽弁閉鎖不全症に対する乳頭筋に介入した僧帽弁形成術の有用性に関する多施設共同研究 (MITRAPLUS Study)」、「早稲田大学 TWIns と共同で大動脈弁形成術の成績向上に向けた拍動流実験」、「本邦における急性 A 型解離の外科治療におけるオーパステントグラフトの役割に関する JCVSD を用いた研究」に関して一定の成果を残すことができた。

(8) 日本心臓血管治療システム研究会

(代 表:遠藤真弘 東京女子医科大学名誉教授

事務局:富澤康子 前東京女子医科大学助教、現東京大学客員研究員)

【事業報告】

従来から行っていた研究をより深め、新しく研究を始めることができた。特に、1) 医師を含む女性労働者が働きやすく、妊娠・出産・子育てを経て復職し継続就労できる環境を評価した。2) 教育機関で指導的立場を得た女性研究者のキャリア形成の選択、どのように地位を得たか、役に立つ支援は何であったかを調べ、研究成果を論文として発信した。3) 僻地・離島で医療を担う医師のキャリアライフと地域医療教育に関する質的研究のインタビューを行った。4) 講師に石田路子先生 (NPO 法人高齢社会をよくする会) と伊藤明子先生 (赤坂ファミリークリニック)、他とし勉強会を開催した。

(9) 分子遺伝子学に基づいた先天性心疾患の成因説明・診断・治療・予防研究プロジェクト

(代 表:中西敏雄 元東京女子医科大学循環器小児科教授)

【事業報告】

臨床研究では、不整脈、先天性 QT 延長症候群、肥大型心筋症、拡張型心筋症の疾患遺伝子の検索、原発性肺高血圧症、心隔欠損等の原因遺伝子の検索および新規疾患遺伝子同定の検索を行った。引き続き、心臓病家系患者の不死化 B 細胞株化も継続して行っており、今後も日本の循環器分野におけるヒトリンパ球バンクならびに遺伝子解析センターとしての機能も果たしていく。また不整脈疾患患者から作製した不死化 B 細胞株を用いての疾患特異的 iPS 細胞の作製、心筋分化誘導後、遺伝子変異による機能変化や薬剤の影響を評価する研究も継続して研究を進め、不死化 B 細胞株から作製した心筋細胞を用い、心筋細胞の機能変化の評価を実施している。

(10) 循環器系発達に関する研究プロジェクト

(責任者:山岸敬幸 東京都立小児総合医療センター院長)

【事業報告】

疾患モデルマウスの解析により、Tbx1 の発現低下により心臓神経堤細胞が異所性に神経系細胞に分化して心臓流出路に移動できないため総動脈幹症が発症する機序と、葉酸投与により NOTCH シグナルが活性化して流出路に移動できる未分化な神経堤細胞数が増えて総動脈幹症が軽症化する機序が示唆された。また、総動脈幹症の家系から TMEM260 バリエントを検出し Tmem260 遺伝子改変モデルマウス解析系を、総動脈幹症と Fallot 四徴症の家系から NOTCH1 と FLT4 の複合ヘテロ接合性バリエントを検出し Notch1/Flt4 遺伝子改変モデルマウス解析系を、房室ブロックと左室心筋緻密化障害の家系から NKX2.5 の新規バリエントを検出し Nkx2.5 遺伝子改変モデルゼブラフィッシュ解析系を確立した。日本心臓血管発生研究会の継続的なサポートに

より最先端の研究成果の発信を推進し、我が国の本研究領域の発展・次世代育成に貢献した。

(11) 発達血管学研究基金 (代 表：中西敏雄 元東京女子医科大学循環器小児科教授)

【事業報告】

周産期の動脈管の収縮・拡張の機構を調べることは、胎児循環生理の重要な課題である。昨年に引き続き、動脈管の収縮機序についての研究を実施した。血管の収弛緩に関係の深い、細胞内のカルシウム貯蔵器官である筋小胞体、ミトコンドリア、細胞膜のカルシウムチャネルの発現量をリアルタイム PCR 法により測定した。L 型カルシウムチャネル (Cav1.2) は、主肺動脈や大動脈に比べて動脈管でおよそ3倍高い発現量を示した。筋小胞体の膜にあるイノシトール三リン酸受容体は、3種類あるが動脈管では3種類とも主肺動脈や大動脈に比べて高い発現を示した。この結果から、酸素濃度変化などのシグナルによって動脈管が他の血管より敏感に収縮を制御される可能性が示された。

(12) ウェーブ・インテンシティー研究プロジェクト

「定期的な軽度の運動の継続による動脈硬化指標の改善—超音波法による評価」

(代 表：評議員 菅原基晃)

【事業報告】

粥状硬化の指標である IMT (Intima-Media Thickness) と血管弾性の指標である圧力-ひずみ弾性係数を表す stiffness parameter β はともに、定期的な運動の継続によって改善されると考えられている。そこで、軽度の体操を考案し、IMT 及び β の改善の有無を検討を行っている本年は中高齢者の被検者を増やし、また、維持期心臓リハビリテーション患者でこの体操を行い、その効果を検討した。その結果、中高齢者の被検者30例において3か月後に β は減少した。そして、その効果は体操3か月でも持続して認められた。また、維持期心臓リハビリテーション患者においては β は変化なかったが、IMT の減少を認めた。以上より軽度の体操であっても、20分の体操を週5回、継続することにより、動脈硬化が改善することが示された。

(13) KAATSU プロジェクト

「Hybrid assisted limb と加圧筋力トレーニングを併用した脊柱変形患者 (心循環器疾患合併も含む) へのリハビリテーション (第二報)」

(代 表：加藤義治 元東京女子医科大学教授・講座主任、第三北品川病院名誉院長)

【事業報告】

Hybrid assisted limb (HAL) を使用し、脊柱変形患者に対し、リハビリテーション (以下 HAL リハビリ) を行っている。脳および脊椎・脊髄疾患、既往歴のない変性腰椎側弯症 (術後) などを対象とし、HAL リハビリとして、ストレッチ、HAL 装着下で座位での体幹屈伸・回旋、立ち上がり・座り訓練、スクワット、立位・歩行訓練などを3か月施行した。結果は10m歩行速度、5回立ち上がりテストが著明に改善した。脊柱変形患者への腰椎 HAL を使用したリハビリはこれら患者の運動機能を明らかに改善する。

(14) 臨床心疾患超音波研究会

(代表世話人：住吉徹哉 榊原記念病院顧問)

事務局幹事：泉佑樹 榊原記念病院循環器内科)

【事業報告】

高齢社会で弁膜症をはじめとした構造的な心疾患を有する心不全患者が増加しており、これに対する外科手術およびカテーテルインターベンションの重要性が増している。当院データより、三

次元心エコーによる僧帽弁輪の動態解析 (PMID: 39978648)、閉塞性肥大型心筋症の構造異常 (PMID: 39002717) についての論文を報告した。また多施設共同研究に多数参加しており、カテーテル治療レジストリーの OCEAN-mitral (PMID: 39873695 など)、心房性機能性僧帽弁逆流に関する多施設後方視的観察研究 (PMID: 39145976 など)、および AMED の多施設共同研究「オールジャパン拡張型心筋症ゲノムコホート研究によるゲノム医療の発展」のコアメンバーとして研究発表を行なった。

(15) 高次脳機能研究

(代 表：理事 高橋幸宏

事務局幹事：稲毛章郎 榊原記念病院小児循環器科)

【事業報告】

本研究の目的は、心臓手術後の高次脳機能と精神運動発達障害に影響を及ぼす要因を明らかにした上で対策を講じ、精神運動発達障害を有する患者さんの発達支援を行う新たなシステムを構築すること、また手術後遠隔期において高次脳機能に影響を及ぼす周術期での要因を明らかにし、神経学的後遺症のない手術および周術期管理を実行することである。

昨年度までと同様に、先天性心疾患のために当院で手術を行った幼児と児童を対象として新版 K 式発達検査やウェクスラー式知能検査 (WISC) を施行し、評価が低く発達異常が見込まれる児に対して、早期から心理カウンセリングなどのサポートを行った。

(16) 先進的心臓血管外科治療プロジェクト (代 表：理事 高梨秀一郎)

【事業報告】

国内外の学会や研究会を現地参加や web にて、企画・出席し、活発に発表を行なった。

心臓血管手術の研究開発・実験・検証から臨床適用を円滑に進めるため、現状の調査研究や研究者の学術的交流を有機的に実施した。若手専門医育成を目的として、エキスパートの先生を招聘して、講演会や技術指導など教育的活動を行なった。また、心拍動下冠動脈バイパス手術訓練装置を用いて、基礎手技の反復練習や、自身の訓練効果の確認を目的とした手術スキルの定量評価を引き続き行なっている。今後も引き続き若手専門医育成に取り組んでいく予定である。

(17) 慢性腎臓病と心血管疾患研究プロジェクト

(責任者：新田孝作 東京女子医科大学腎臓内科客員教授)

【事業報告】

本年度の研究目標として、常染色体性多発性嚢胞腎 (ADPKD) 患者における血清リン値と腎予後の関係を調査しました。ADPKD においては骨ミネラル代謝異常 (MBD) に関する報告は少ないのが現状です。ADPKD では70歳までに約50%が透析療法が必要になります。その過程で、高血圧が危険因子として幅広く研究されており、降圧薬の選択が重要なテーマになっています。今回は、リン低下薬を服用していない235例の ADPKD 患者を対象としました。推算糸球体濾過値 (eGFR) 50% 低下を腎予後の指標としました。結果として、血清リン値が4.0 mg/dl を超えると腎予後が悪くなりました。

(18) 循環器領域の心身医学および行動医学に関する研究プロジェクト (代表：評議員 笠貫宏)

【事業報告】

循環器疾患における認知行動療法は極めて重要である。昨年、高血圧治療補助アプリがプログラム医療機器 (SaMD) として保険適用となった。しかし、ソフトウェアによる日常生活の行動

変容アプリは治療のみならず、一次予防、二次予防、三次予防、さらには健康維持増進に有効である。使用者も医師、患者、国民と幅広く、また医療機器から健康機器まで幅広い。

本年度は、第3期健康・医療戦略策定に向け、第23回健康・医療戦略参与会合（令和6年4月24日）にて、「SaMDの新産業育成と海外展開」を提案した。また、2023年度から始めたベンチャー企業、スタートアップ企業、学会、行政との意見交換を継続し、SaMD、non - SaMDに加えた、「保健機能機器・機能性表示機器」制度の新設について提案を行った。エビデンスレベルと使用目的、使用者別に公的保険のみならず、公的保険外使用へとダイナミックな機器開発の展開が必要である。

(19) 国民のための医療システム構築に関する研究プロジェクト（代表：評議員 笠貫宏）

【事業報告】

本研究プロジェクトでは、2021年より、「電子カルテ改革による医療DX」の推進を支援してきた。本年度は、第3期健康・医療戦略策定に向け、第23回健康・医療戦略参与会合（令和6年4月24日）で「電子カルテ改革とカルテの質の向上」、第24回健康・医療参与会合（令和6年12月5日）では「健康医療データ全般に関わる基本構想と法整備（基本法）の検討」について提案を行った。さらに、電子カルテに関し法律や倫理やレギュラトリーサイエンスを中心に検討する研究会（早稲田大学医療レギュラトリーサイエンス研究所・先端社会科学研究所共同）を開催し、医療情報に関わる基本的な法整備の必要性について検討を行った。

(20) 末梢臓器血流に関する研究プロジェクト（責任者：進藤廣成 大月市立中央病院顧問）

(I) ステルスナビゲーションシステムを使用した腰椎椎弓根スクリュー挿入術の精度研究（第二報）
（主任研究員：加藤義治 元東京女子医科大学教授・講座主任、第三北品川病院名誉院長）

【事業報告】

現在我々は、X線CT装置Oアームとステルスナビゲーションシステムを使用して腰椎椎弓根スクリュー挿入術を施行している。これまで同システムを使用せずに挿入した手術と使用して行った挿入術をCT像の検討から本システムの有用性を検討した。その結果として、X線CT装置Oアームとステルスナビゲーションシステムは従来手術に比し、きわめて高い精度を持つことが確認された。本装置は、現在のところ最も正確なスクリュー挿入装置と認識される。

(II) 慢性腎臓病重症化予防における食事療法と運動療法の併用に関する検討

（主任研究員：新田孝作 東京女子医科大学腎臓内科客員教授）

【事業報告】

本年度の研究は、血液透析患者におけるエポラルセトの安全性と有効性について検討しました。血液透析患者においては、二次性副甲状腺機能亢進症に伴う血清リンとカルシウムの制御が大切です。心血管疾患の合併が増加するからです。赤血球造血刺激因子（ESA）抵抗性を有する維持血液透析患者における貧血治療に焦点をあてて検討しました。今までは、食事中的リン制限、透析効率の向上およびリン吸着薬での治療が一般的でした。最近、シナカルセトの改良型であるエポカルセトが開発され、リン・カルシウム代謝への影響が向上すると考えられます。血液透析患者にエポカルセトを投与して、2年間の前向き試験を行い、その安全性と有効性が確認されました。

(Ⅲ) 脈絡膜における形態および血流変化の検討

主任研究員：飯田知弘（上尾中央総合病院特任副院長・アイセンター長、東京女子医科大学客員教授）

【事業報告】

1. 数理モデルによる網膜・脈絡膜循環シミュレーション

OCT angiography を用いた網膜血管、特に中心窩無血管野（FAZ）の構造に関する研究を継続した。臨床での結果を基に、数理モデルにより FAZ 形成過程、網膜血管発生のモデル作成を進め、様々な条件を追加することにより精度を増して、ヒト網膜血管走行によく類似したモデルを作成した。それを元に未熟児網膜症のモデル開発も進めている。また並行して、中心窩陥凹形成過程のシミュレーションも精度を増したモデル作成を継続している。

2. 黄斑疾患の治療前後における網脈絡膜の形態と血流変化の検討

新生血管型加齢黄斑変性に対する faricimab、afibercept 8mg による治療前後における網脈絡膜の形態と血流変化を新規症例だけでなく、従来薬からの変更例においても評価検討した。これらの研究成果は、各種学会や講演で発表し、また英文論文として公表してきている。

(21) 肥大型心筋症臨床医学研究プロジェクト（責任者：高山守正 榊原記念病院顧問）

【事業報告】

肥大型心筋症センターの臨床研究を支える活動であり、難治性心不全を来す重症肥大型心筋症への新しい治療の確立を本プロジェクトの目的としてきた。薬剤抵抗性の閉塞性肥大型心筋症（HOCM）に対する経皮的中隔心筋焼灼術（PTSMA）は責任者高山が国内導入を図り安全確実な治療法を確立してきた。一方、外科的中隔心筋切除術（Myectomy）は、高梨特任副院長が内科・外科共同の構想をメス先に表現しモロー手術を大きく超える拡大中隔心筋切除術として完成させた。2024年にも順調に実施され、PTSMA は41例に、Myectomy は HOCM20例に実施され、院内死亡ゼロであった。併せて治療法の教育活動を続け安全な治療の国内普及を図る。また HCM レジストリーの構築が進み総計3200例を超え、登録データを元に臨床研究を推進し、英文誌に3編の報告をした。一方、「肥大型心筋症の患者・家族向けセミナー」既に計4回開催し、計407名に参加頂き、一生に亘る長年の生活・生き方への情報供給とした。

(22) 血管疾患臨床医学研究プロジェクト（代表：研究副委員長 友池仁暢 榊原記念病院顧問 事務局：新本春夫 榊原記念病院血管外科主任部長）

【事業報告】

1. 臨床研究

I. 動脈瘤の臨床研究

- 1) 2007年から2022年までに実施された腹部大動脈ステントグラフト内挿術（EVAR）の際に中枢側のメインボディと異なる企業製の末梢側の脚デバイスを組み合わせて治療した85例（hybrid 群）を対象とし、脚の接合部からのエンドリーク（type3EL）や脚閉塞、さらに大動脈瘤関連死や再治療介入回避率を同一企業製デバイスで治療を完遂した non-hybrid 群506例と比較検討した。hybrid 群では type3EL や脚閉塞は認めなかった。また hybrid 群では術後1年、5年、10年での瘤関連死亡回避率や再介入回避率において non-hybrid 群と有意差を認めなかった。同一企業製のデバイスの組み合わせでなくても、中枢側、末梢側それぞれの解剖学的条件に適合した異なる企業製デバイスを選択すれば初期および長期の治療成績が同等で満足できる結果であった。

- 2) 多施設臨床研究として「破裂性腹部大動脈瘤に対する開腹手術とステントグラフト内挿術の治療選択に関する全国多施設観察研究」に参加し、現在進行中である。

II. 閉塞性動脈硬化症の臨床研究

多施設共同研究として「浅大腿動脈血管内治療デバイスの前向き比較観察研究【Toma-Code FP study】」に参加している。当院の登録症例の予後追跡調査は終了、他施設での調査終了を待っている状況である。

III. 伏在型下肢静脈瘤の臨床研究

「血管外科外来における疾患・治療説明効率化による患者満足度と診療時間変化の検証」と題して、下肢静脈瘤の外来における患者満足度向上と職員の業務負担軽減を図ることを目指す研究を開始した。現在症例の蓄積中である。

2. 教育的活動

各医師が別途リスト記載の論文発表や各種関連学会などが主宰する学術総会に参加し、発表や討論を行った。

(23) 先天性心疾患肺高血圧研究基金 (代表: 中西敏雄 元東京女子医科大学循環器小児科教授)

【事業報告】

単心室血行動態疾患ではフォンタン手術が施行される。フォンタン手術後には平均肺動脈圧が15 mmHgを越える肺高血圧となることがある。本研究では肺動脈圧の高値は、不整脈や心不全、肝硬変などをきたし、予後不良の原因となることを明らかにした。また肺高血圧を伴う先天性心疾患では、肺血管閉塞性病変は進行性である。その進行速度は、疾患により異なる。短絡閉鎖の可否に関してのエビデンスは乏しい。本研究では、心房中隔欠損症(ASD)の治療経過を調べ、13Wood単位・m²以下なら短絡閉鎖後の長期予後は良好であることがわかった。ASDでは8Wood単位・m²以上でも治療可能である可能性があるが、長期予後のデータ蓄積が重要である。

(24) 重症心不全の再生治療プロジェクト (代表: 研究所・研修所所長 研究委員 細田徹)

【事業報告】

c-kit陽性心臓幹細胞を用いるJOKER試験は、重症心不全で冠動脈バイパス手術を受ける患者を対象とした。術中に右心耳を部分切除して凍結し、術後の左心室駆出率が40%以下の場合、セルバンク社でc-kit陽性幹細胞を培養し、品質条件を満たした幹細胞100万個を榊原記念病院で経カテーテル的にバイパス血管内へ移植する。

2017年より被験者登録し、2018年に第1、2019年に第2例目の幹細胞移植を遂行した。バイパス手術のみの対照群と比較して心機能の改善傾向が認められている。日本医療研究開発機構の再生医療実用化研究事業に応募したが、国内に特許がない等の理由で採択されず、追加予算獲得の見通しが立っていない。

(25) 救急蘇生科学研究プロジェクト (代表: 評議員 笠貫宏)

【事業報告】

本研究プロジェクトはわが国における救急蘇生科学の学際的研究を目的とし、一般社団法人日本蘇生協議会(JRC)で実践してきた。本年度は、第16回日本蘇生科学シンポジウム(共催:第121回日本内科学会講演会)の開催を支援し、救急蘇生科学の教育・啓発、普及の推進を図った。

また、救急蘇生科学の研究推進と活動の強化を図るため、本プロジェクト代表者を、2025年度から坂本哲也(JRC代表理事)に変更することを決定し、手続きを行った。

(26) 心血管救急医療推進会議 (代 表: 高山守正 榊原記念病院顧問)

【事業報告】

東京都は、保健医療局が緊急に発生する心血管救急に対し、東京都医師会に委託し東京消防庁と共に活動する東京都CCU連絡協議会(東京都CCUネットワーク・急性大動脈スーパーネットワーク)を設け、救急患者の医療機関への緊急収容と優れた診療の実施を管理してきた。プロジェクト「心血管救急医療推進会議」は東京都CCU連絡協議会の活動を支える組織であり、本協議会は都内76施設(2024年)が東京消防庁と協力し24時間の発症に対応可能な心血管救急システムである。本組織は東京都全地域をカバーし、全ての緊急心大血管疾患の発症に対し迅速に診療能力の高い基幹施設へ速やかな搬送を促し優れた実績を示してきた。2024年は大規模な組織の円滑な運営が戻り、2023年の全施設から18013例の詳細報告を受け、年次の疾患別解析が進んでいる。「心血管救急医療推進会議」は活動実績を東京都への報告・提言する解析作業を行う事務局を支援する役目を務めている。

(27) 先端的心不全診療のための心臓血管カテーテル治療・デバイス治療・画像診断開発プロジェクト

(代 表: 専務理事・研究委員 磯部光章 榊原記念病院院長)

【事業報告】

心不全・大型血管炎・その他

心不全領域での予防・啓発・罹患後の生活向上、市民・患者への啓発活動、医療者への教育活動、研究活動を行ってきた。4月には脳卒中・心臓病等総合支援センター(各都道府県に1か所)、難病支援拠点病院(東京都に1か所)の指定を受け、患者相談窓口の設置、両立支援、市民啓発(料理教室、運動教室、お薬教室、市民公開講座、成人先天性心疾患ピアサロン)の開催、親子心臓教室などを行った。医師を対象としたハンズオンセミナー、ボストン小児病院との共同live webinarなど全国にむけての講演会を開催。書籍「心アミロイドーシス」、「経食道心エコー」等を発刊。大型血管炎では極めてまれな「isolated aortitis」の複数の症例を報告した。地域の介護・福祉施設職員、あるいは両立支援コーディネータ等を対象として研修会、講演会を行い、また多職種就業者のネットワークを構築した。

虚血および構造的な心疾患部門

心血管救急の拠点施設として年間365日の受け入れ態勢を堅持し、2024年は急性心筋梗塞247件、急性大動脈症173件を受け入れた。この体制に基づいてST上昇型急性心筋梗塞に対する単剤抗血小板療法の有効性と安全性を検討する国内多施設共同研究に参加し、全国2位の症例を登録した。急性冠症候群に対するOCTを用いた冠動脈形成術の有効性に関する研究では、おおよそ80%の症例に対してOCTによる冠動脈形成術が可能であることを報告した。当院が事務局となっている経皮的な大動脈弁置換術登録研究から男性でも骨粗鬆症合併例では予後不良であること、また、経カテーテル的大動脈弁置換術施行前の心不全の既往が新しく改良されたデバイスにおいても予後に影響を与えることを論文化した。

不整脈部門

2024年の年間カテーテルアブレーション症例数は1229例で過去最高となり、本邦で最多となった。他院で不成功に終わった難治性心房細動に対する治療も増加している。植込みデバイス症例数は、ペースメーカー406例、植込み型除細動器(ICD)・心臓再同期療法(CRT)113例、植込み型心電計(ICM)42例の計561例であった。経静脈的リード除去術は24例で他院からの紹介が多い。

豊富な症例数があり、医師のみならず臨床工学技士や看護師も臨床研究を行ない、数多くの

学会発表や論文発表を行った。

画像診断

構造的心疾患に対する CT を用いた治療支援について、review article として詳細に解説した (J Cardiol. 2025)。また AI を用いた撮像条件設定を行う最新の CT 装置が導入され、日本循環器学会総会などでその初期経験を発表した。さらに AI による核医学診断支援の研究も進めており、日本核医学会総会など多くの学会で発表を行った。近年注目されている心アミロイドーシスの診断において必須の非侵襲的画像診断 (心エコー、MRI、核医学検査) を体系的にまとめ3月に各分野の専門家を集めてセミナーを開催し、2025年3月に書籍にまとめて出版した。

(28) 低侵襲心臓手術のための社会啓発・画像診断・デバイス開発プロジェクト

(代 表：下川智樹 帝京大学医学部附属病院心臓血管外科主任教授)

【事業報告】

本プロジェクトは、心臓血管外科の低侵襲治療を中心に、画像診断・デバイス開発・専門医育成・社会啓発を統合的に推進することを目的として発足した。今年度は、以下の重点研究テーマに沿って実績を積み重ねた。

- ・僧帽弁形成術後再発に関する遠隔期予測因子の解析
- ・低侵襲心臓手術に関する実施体制と教育プログラムの整備

加えて、学会発表・研修会・患者向け広報活動なども展開し、社会実装に向けた基盤づくりを推進した。

来年度は、AI 診断支援や遠隔教育の導入、患者参加型の意思決定支援ツール開発にも取り組む予定である。

(29) 次世代心臓血管治療イノベーションプロジェクト

(代 表：岩倉具宏 榊原記念病院心臓血管外科主任部長)

【事業報告】

2024年度、完全3D 内視鏡 MICS を駆使し、大動脈弁・僧帽弁・三尖弁・心房中隔欠損・心房細動等へ低侵襲治療を展開した。僧帽弁形成は34年で累計2,800例となり、冠動脈手術では QFR や MICS-CABG を活用し良好成績を得た。急性大動脈解離 (Stanford A) は年間約100件施行し、安全性向上を達成した。全領域で個別適応を重視し、早期社会復帰と QOL 改善を実現するとともに、国際学会発表 (EACTS、AHA、STS) も推進した。

3. 国内学会への協力

(A) 第44回東京CCU研究会 (会長：杉村洋一 河北総合病院名誉院長、総合診療科主任部長)

- 1) 会 期：2024年12月21日 (土)
- 2) 会 場：東京都医師会館
- 3) 主 催：東京都CCU連絡協議会、(公財) 榊原記念財団
- 4) 後 援：東京消防庁、東京都医師会
- 5) 協 力：東京都保健医療局

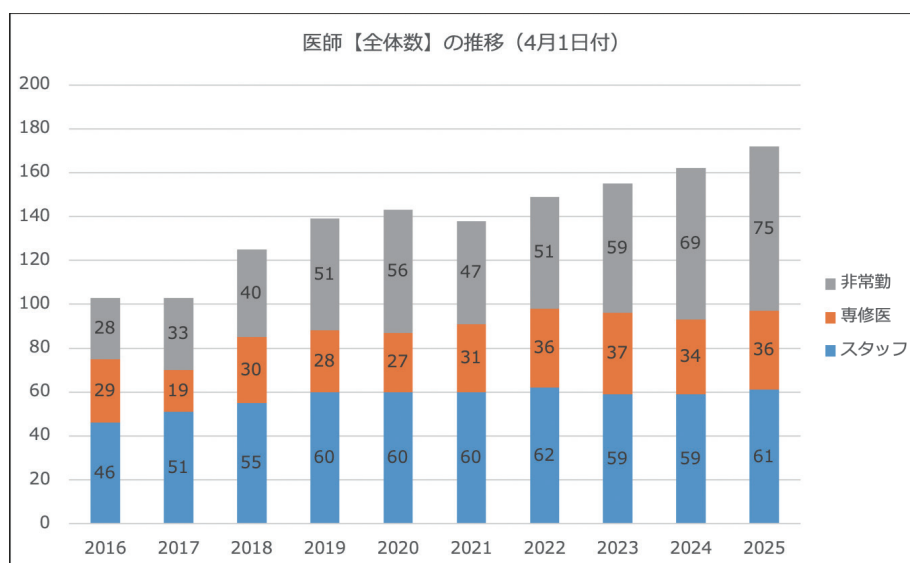
4. 附属臨床研究施設

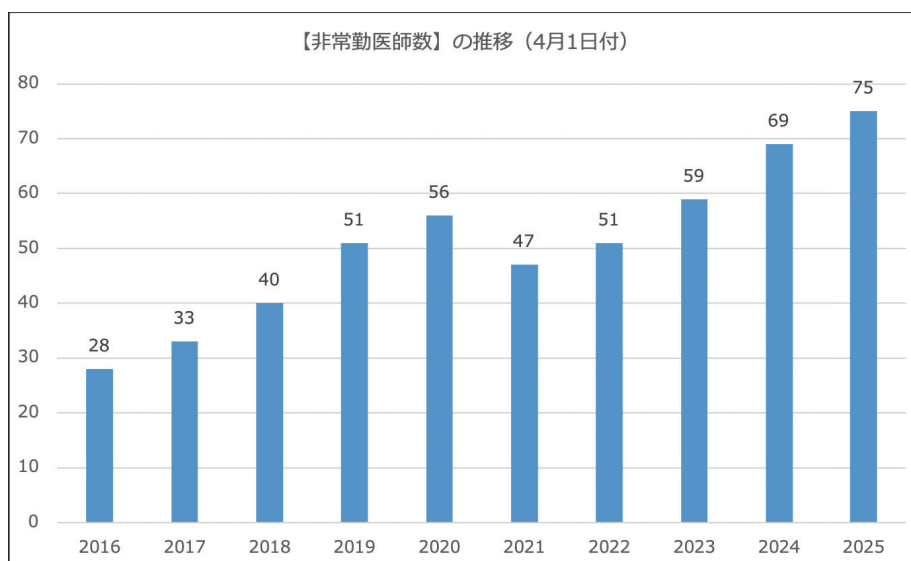
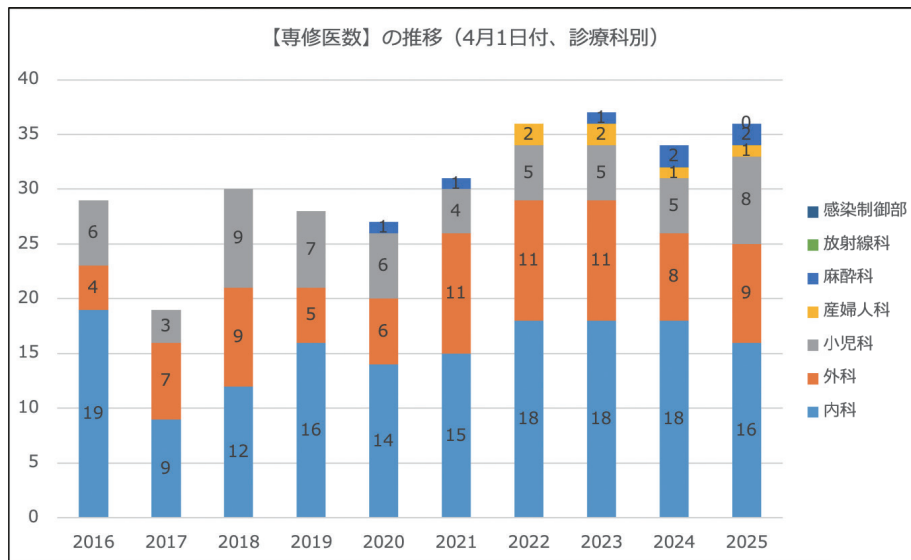
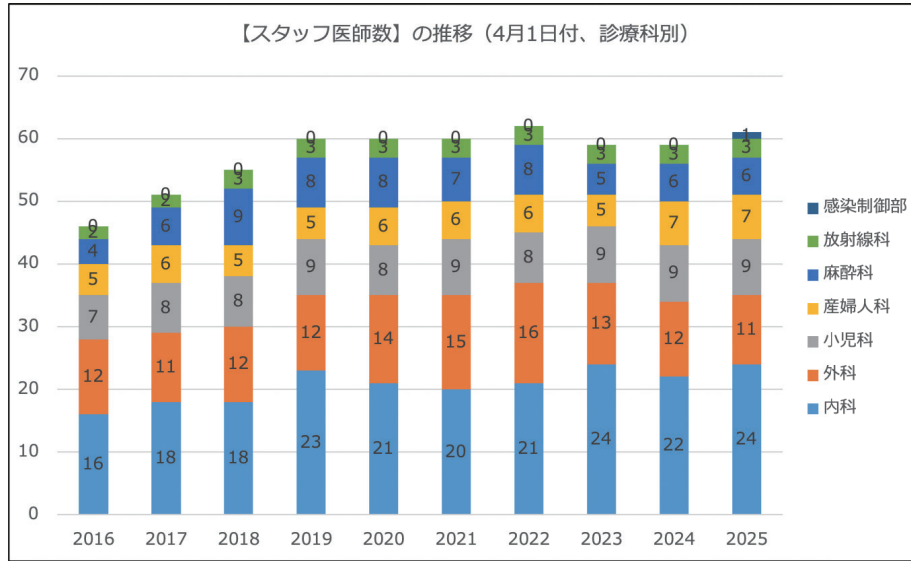
(A) 榊原記念病院 (院長：専務理事・研究委員 磯部光章)

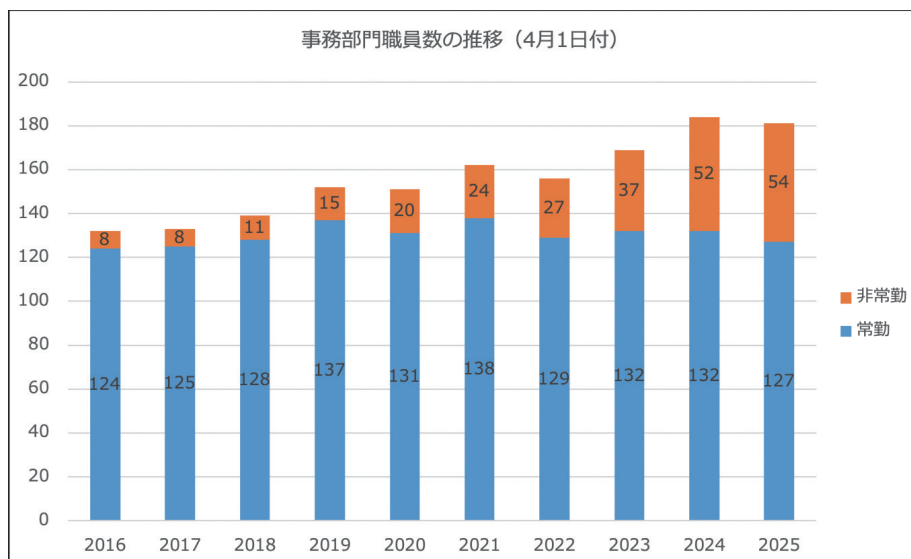
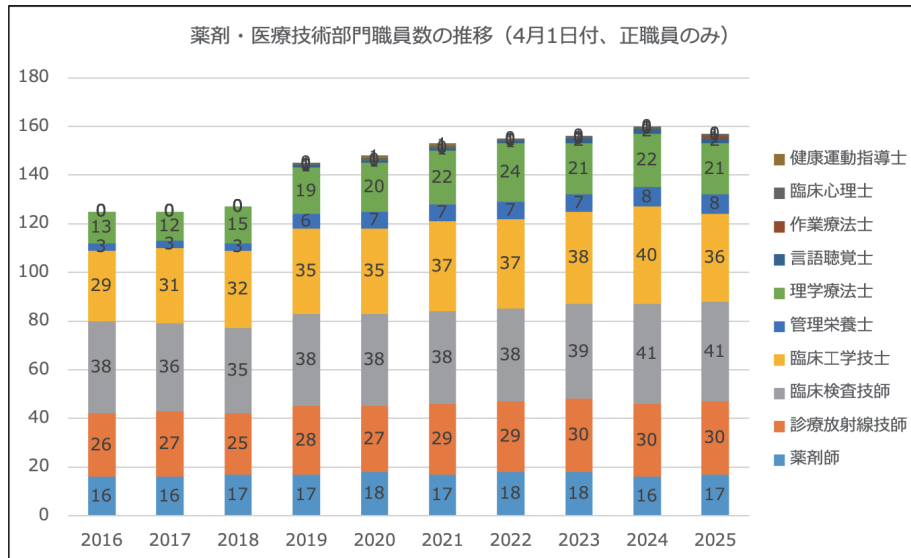
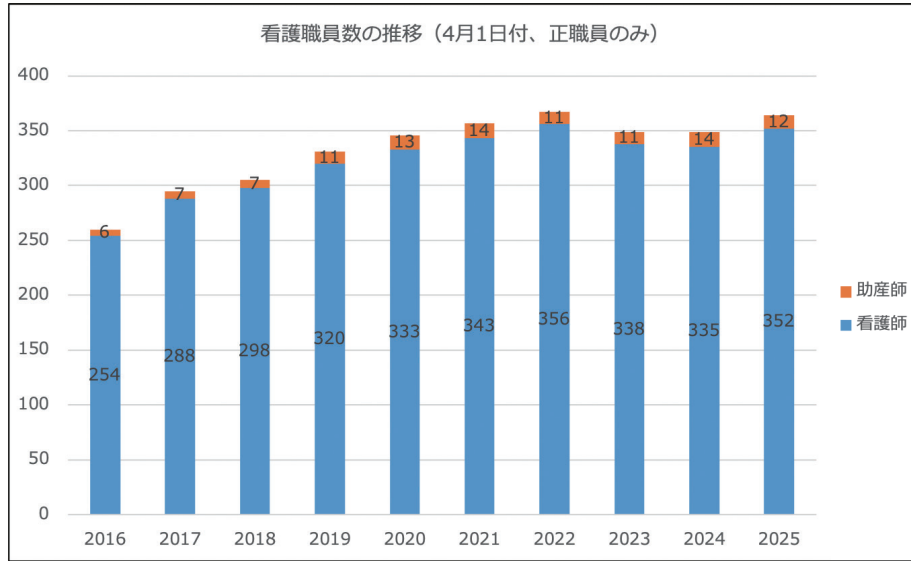
一、安全・安心・良質な医療サービスの提供

指定等

- 令和6年度 東京脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業に採択された。
(日本医科大学附属病院・榊原記念病院・武蔵野赤十字病院合同)
- 令和6年度 東京都周産期医療体制整備計画において、周産期連携病院として指定された。
- 令和6年度 東京都難病診療分野別拠点病院として指定された。
- 令和6年度 東京都心不全サポート事業 心不全サポート病院に選定された。
(令和5年度より継続)







一、安全・安心・良質な医療サービスの提供 【脳卒中・心臓病等総合支援センター モデル事業】

1. 相談窓口の開設と運用開始

「心臓病総合相談窓口」を開設（2024/8/20～）

心臓病のQ & A（よくある質問/51項目）を設定し、HPに掲載
相談件数

メール相談：計 70件（2024/8/20～2025/3/31）

電話の相談：計8,952件（2024/7/1～2025/3/31）



2. 両立支援ネットワークの拡充

「心臓病両立支援ネットワーク」設立

全国の看護師、産業医、MSW、理学療法士など多職種を含む110
名が登録。

今後ネットワークを活用し、地域の医療連携を強化。

3. 医療機関連携・協議会活動

東京都内での連携体制の構築

CCU 連絡協議会加盟病院（76施設）を中心に患者支援
の実情に関するアンケート実施。

結果をもとに、心臓病総合支援連絡協議会の病院（20
施設）グループを形成。

「東京心臓病総合支援連絡協議会（設立準備会）」開催

日時：2025/11/15 都庁特別会議室

議事：事業概要について、アンケート調査結果の概要、センターの活動の概要
病院における患者・家族支援活動について、他



東京 脳卒中・心臓病等総合支援センター

日本医科大学付属病院・横濱記念病院・武蔵野赤十字病院



4. ホームページ「東京 脳卒中・心臓病等総合支援センター」開設

センターの紹介、「相談支援窓口」の設置、脳卒中・心臓病につ
いての情報提供

セミナー開催情報、リンク / 東京都保健医療局・とうきょう脳卒
中・心臓病ガイド

アクセス件数（2024/11/1～2025/3/31）

HP トップページ 計 674

相談窓口 / Q & A 計 1,804



5. 公開講座・教室等を通じた啓発・市民支援活動

多くの市民が参加可能な公開講座や体験型教室等、計8回 開催

※詳細は、二、その他 【患者・市民への啓発活動の継続、発展】で報告する。

一、安全・安心・良質な医療サービスの提供 【心不全サポート事業】

1. 看護・介護関係者向け研修会

開催日：計6回（2024/4/20、6/15、8/23、12/7、2025/1/11、3/19）

対象：地域包括支援センター、訪問看護ステーション、介護福祉施設等に勤務する看護・介護職員

参加者：医師、看護師、介護支援専門員、薬剤師、理学・作業療法士、MSW、介護福祉士、事務等 延べ273名

職員：延べ45名が運営に参加

テーマ：●地域全体で心不全患者さんに寄り添うためにできること

- 心不全患者さんの＜食＞
- 心不全患者さんのシック・デイ対策
- 再入院せずに冬を乗り切る！
- キーパーソン不在!? 認知症・末期心不全患者の在宅生活支援を考える
- 地域連携のツールを地域全体で活用するために

2. 北多摩南北医療圏地域連携交流会《Heartlink》

開催日：計4回（2024/6/26、7/23、10/23、12/19）

対象：北多摩北部・南部医療圏内の循環器急性期診療に携わる病院の職員

参加者：延べ123名（医師、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、社会福祉士、臨床工学技士、MSW等）

職員：延べ9名が運営に参加

3. 心不全療養指導士交流会

開催日：計1回（2025/1/23）

対象：都内在籍の心不全療養指導士及び心不全診療に携わる医療従事者

参加者：71名

職員：2名が運営に参加

4. 携帯型心エコーを在宅医療に活用するプロジェクト

訪問診療施設の医師にハンズオンセミナーを実施。

貸出医療機関数：4施設

職員：延べ6名が運営に参加



はーとサポート
net

一、安全・安心・良質な医療サービスの提供 【休日・祝日診療／ファストエコー】




□ 休日・祝日診療

- 連休中における地域医療体制の充実等を図るため、祝日に診療体制日を設けており、2024年度は、5月3日（金・憲法記念日）、9月23日（月・振替休日）、12月30日（月）を通常診療日とした。

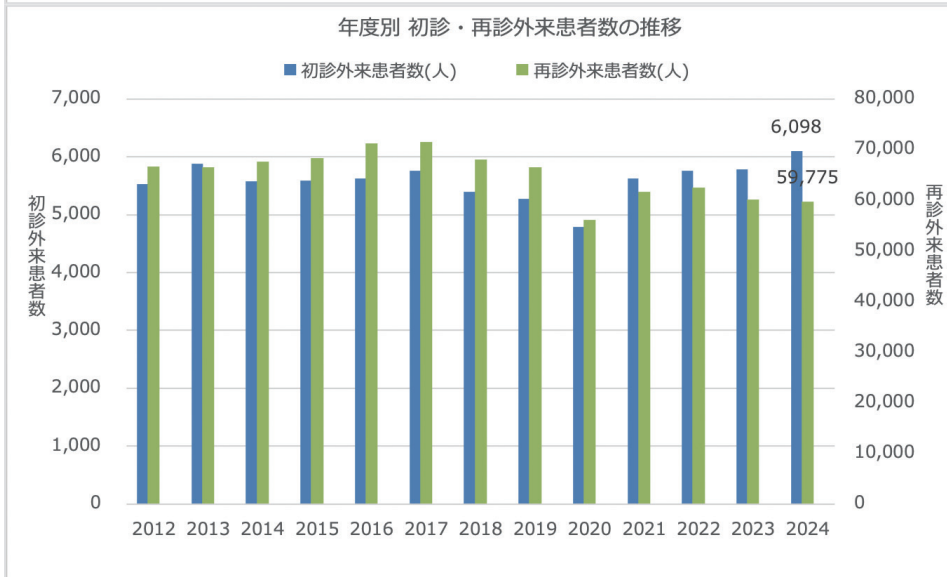
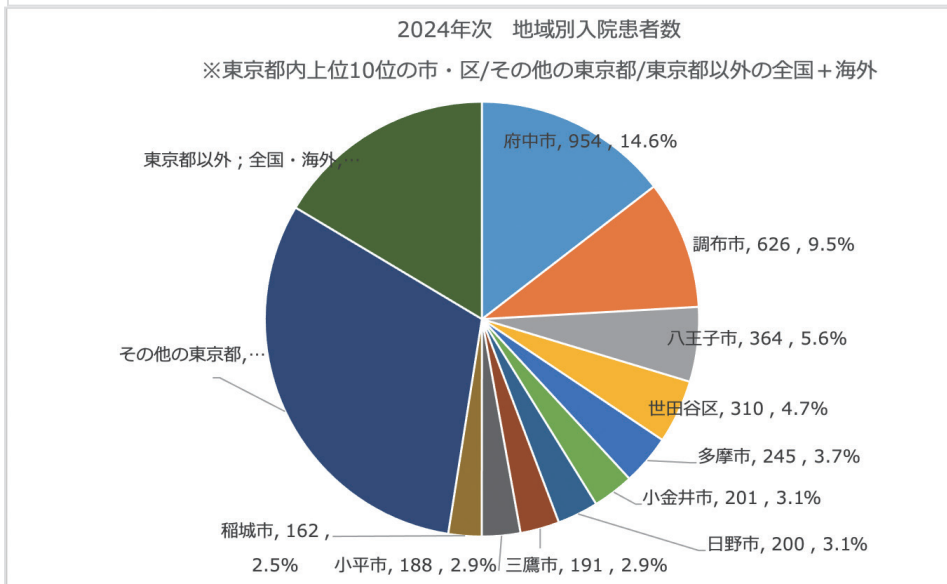
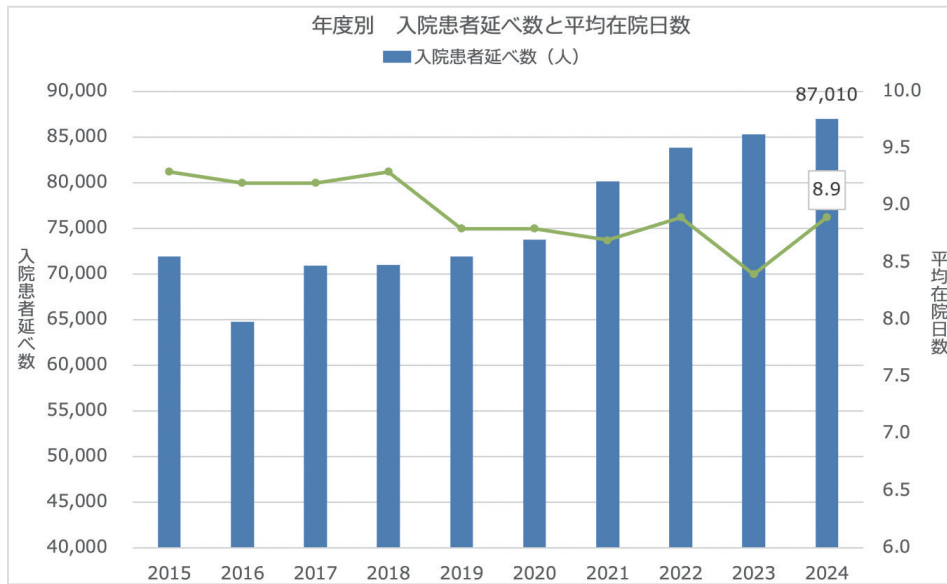
□ ファストエコー（2023/1/25 府中市の登録医を対象に開始）

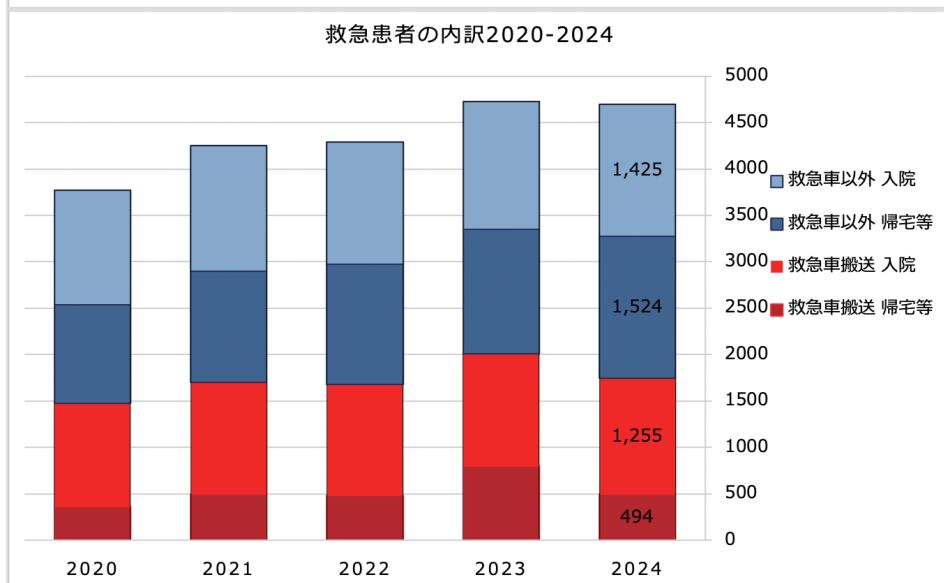
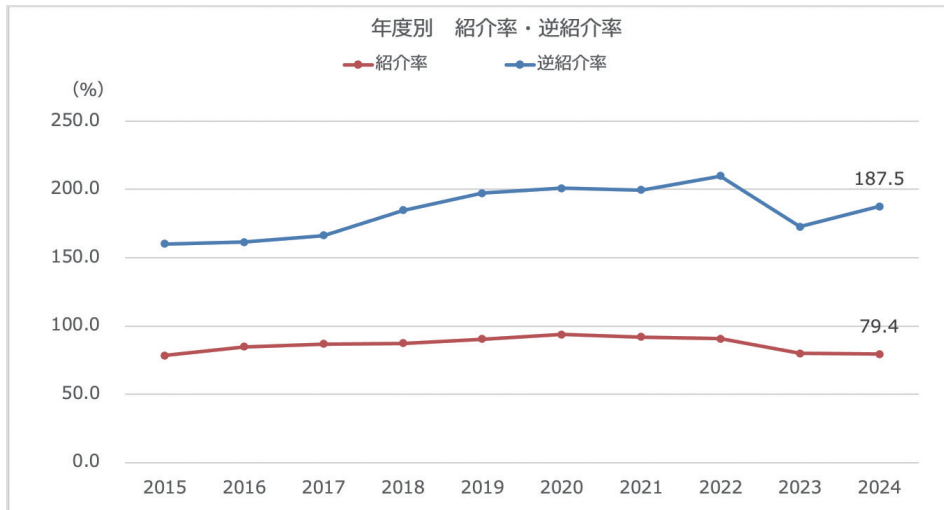
- 登録医を中心に、エコーの申請に対応している。
- 受け入れ手順に則り、対応できるようになった。
- 放射線科の読影体制について共有し、引き続き、地域のニーズに応える。
- 2024/4～2025/3 総数：143件

一、安全・安心・良質な医療サービスの提供 【施設・設備】

<p>2024/7/19</p> <p>ACU10号室奥に2床の透析専用室を新設した。</p> <p>腎センター長（浦部医師）、腎臓専門医（小山医師）を中心とした、ACU・CCU看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床工学技士、医事課などの多職種チーム体制で運用している。</p>	
<p>2024/7/22</p> <p>シーメンスヘルスケアの日本1号機である最新型 Dual SourceCT「SOMATOM Pro.Pulse」をCT室2へ導入した。</p>	
<p>2024/9/6</p> <p>外来処置室を新設し、9/27から処置を開始した。</p>	

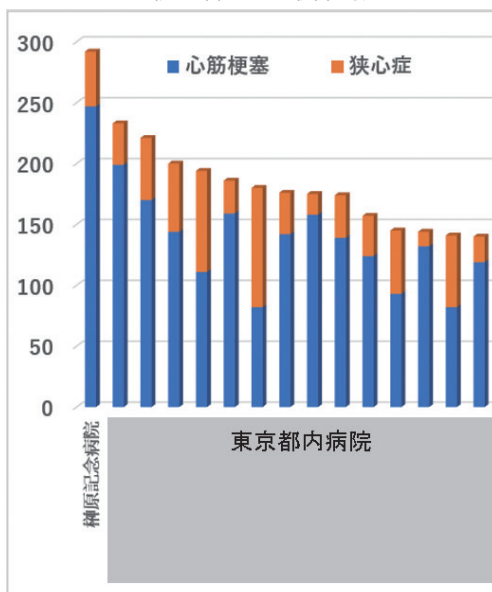
一、安全・安心・良質な医療サービスの提供 【診療実績】



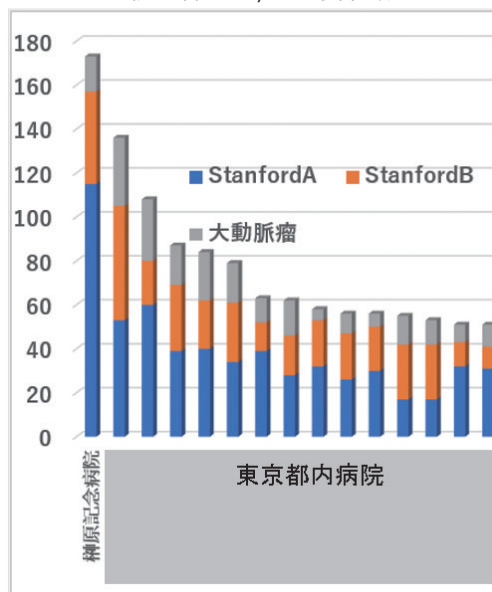


東京都 CCU ネットワークデータ (2024 年)

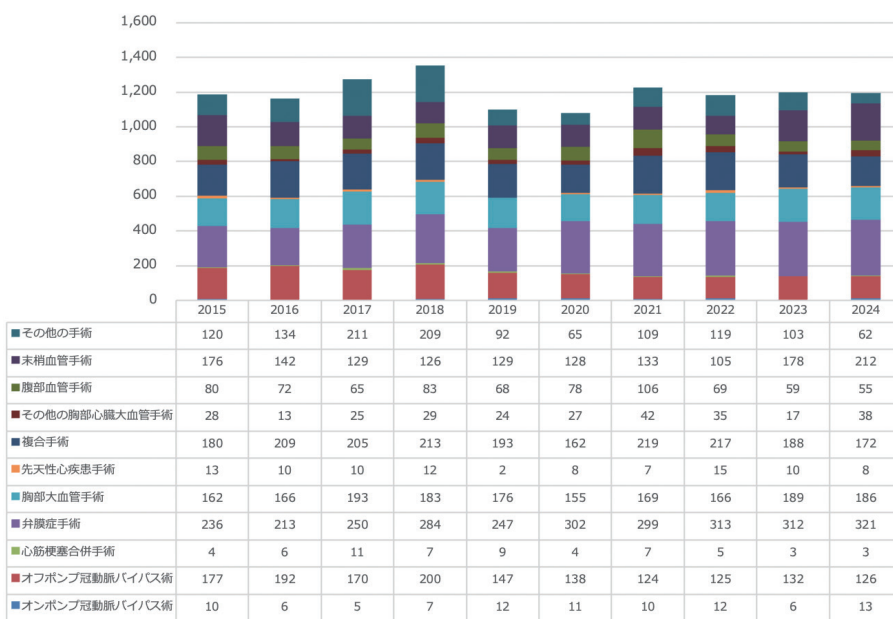
急性冠症候群 (ACS)
病院別年間 CCU 収容者数



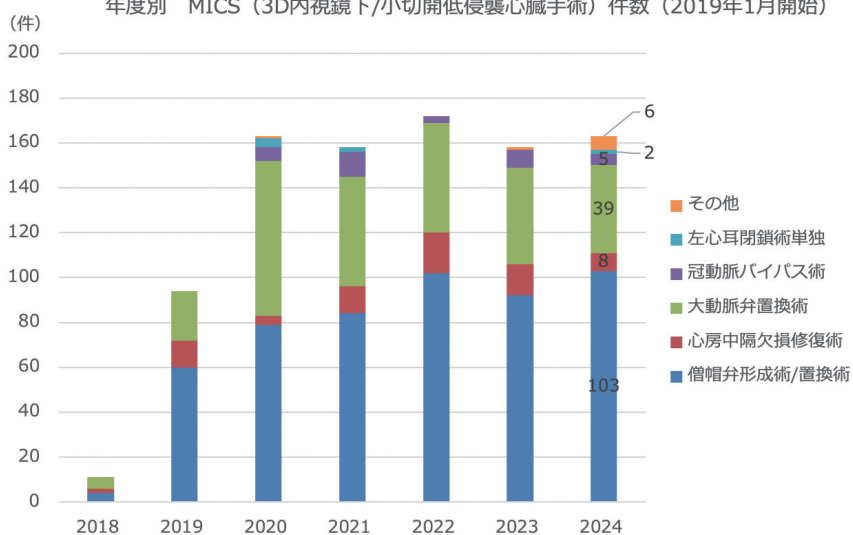
大動脈緊急症
病院別年間 ICU/CCU 収容者数



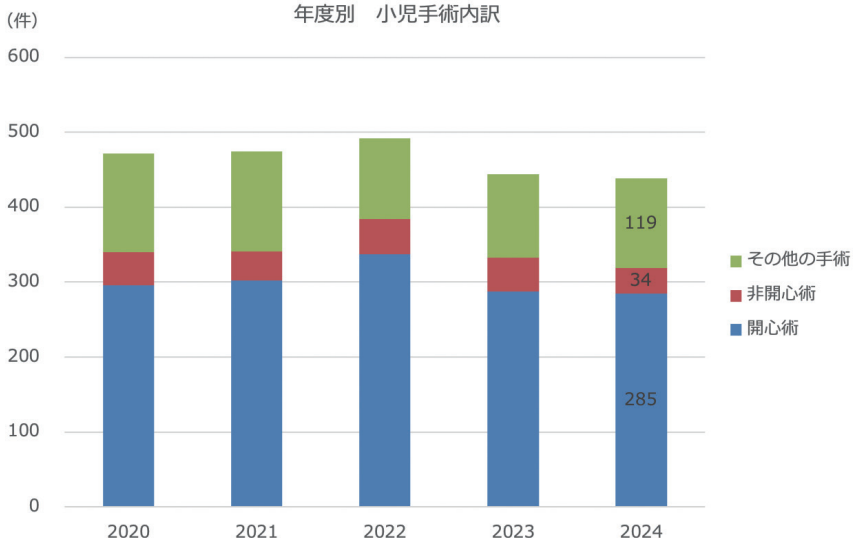
年度別 成人手術内訳

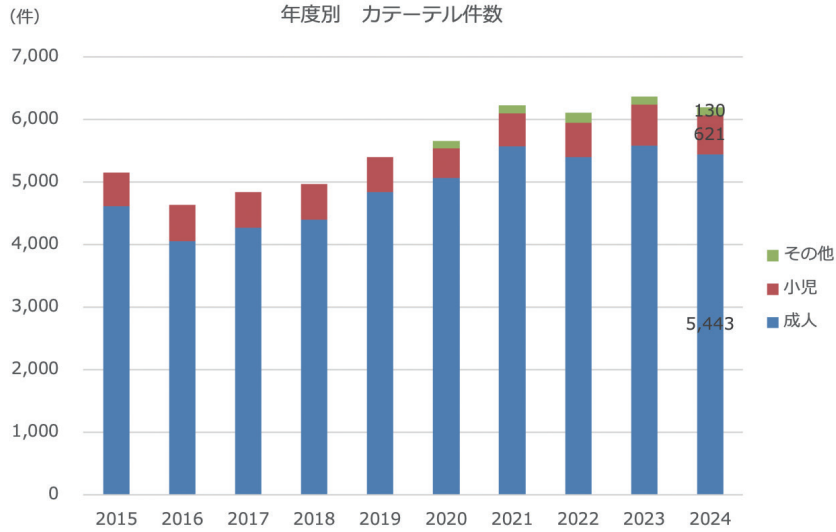


年度別 MICS (3D内視鏡下/小切開低侵襲心臓手術) 件数 (2019年1月開始)

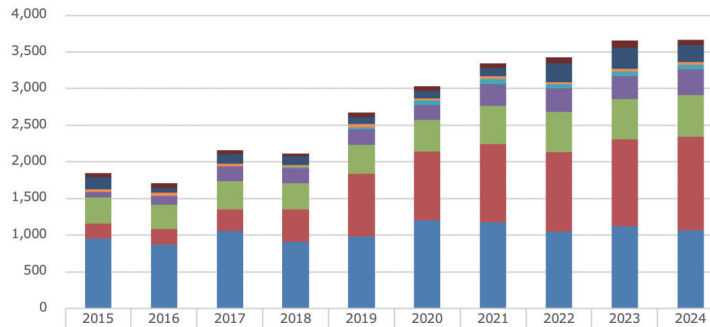


年度別 小児手術内訳



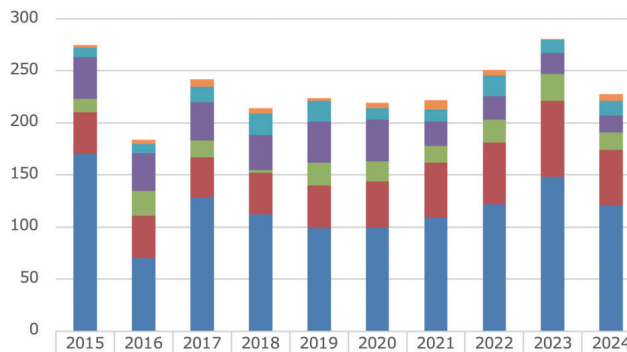


年度別 主な成人治療実績



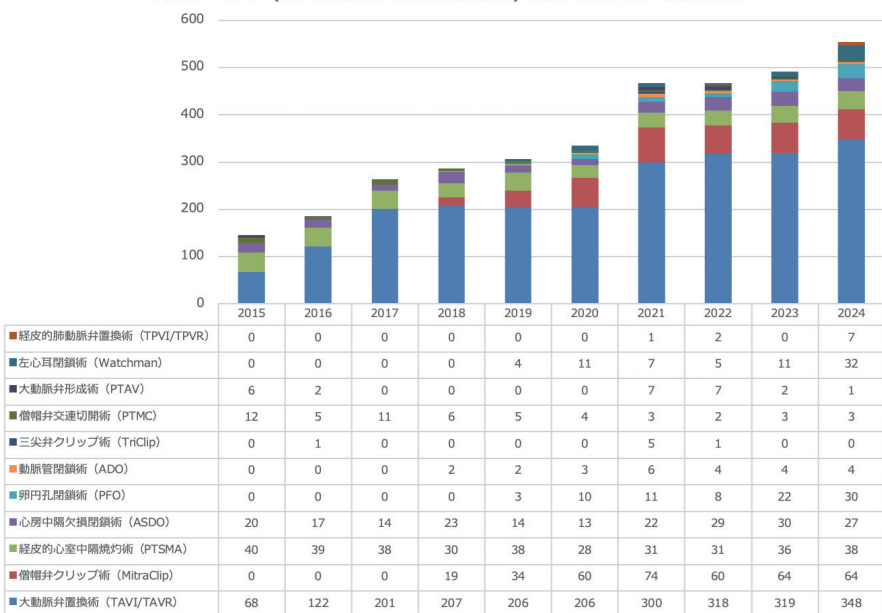
■ 腹部/胸部ステントグラフト内挿術 (EVAR/TEVAR)	53	65	55	43	63	64	69	81	99	70
■ 末梢血管形成術(EVT)	170	70	128	112	99	99	109	257	283	231
■ 経皮的心室中隔焼灼術(PTSMA)	40	39	38	30	38	28	31	31	36	38
■ 僧帽弁クリップ術(MitraClip)	0	0	0	19	34	60	74	60	64	64
■ 大動脈弁置換術(TAVI/TAVR)	68	122	201	207	206	206	300	318	319	348
■ 植込み型不整脈治療機器手術	358	330	384	353	396	431	519	553	546	572
■ アブレーション	205	209	295	443	855	941	1,066	1,080	1,185	1,277
■ 経皮的冠動脈形成術(PCI)	956	878	1,060	910	985	1,201	1,177	1,049	1,124	1,064

年度別 主な血管治療件数

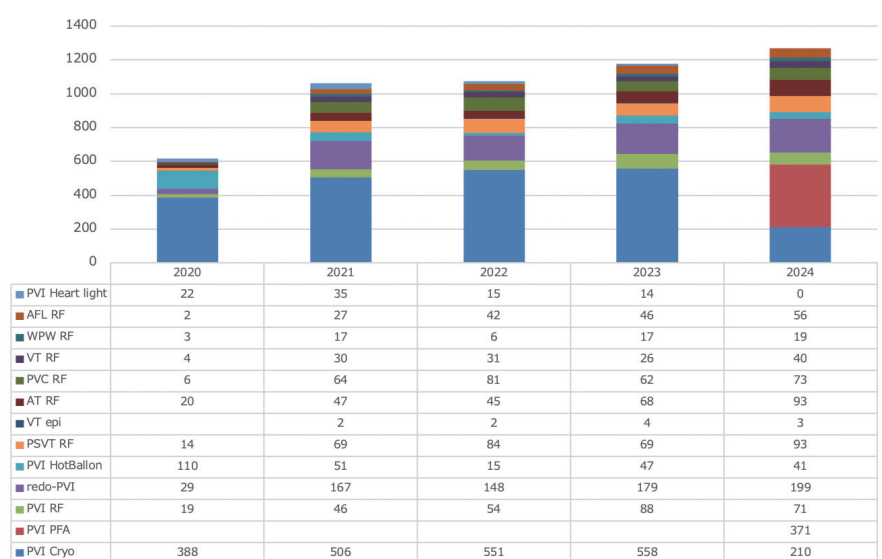


■ 末梢動脈形成術&内膜摘除術	3	4	7	5	3	5	9	5	1	7
■ 血栓除去術(Fogarty)	9	9	15	21	20	11	12	20	13	14
■ コイル塞栓術	40	36	37	33	39	40	23	23	20	16
■ 胸部ステントグラフト内挿術(TEVAR)	13	24	16	3	22	19	16	22	26	17
■ 腹部ステントグラフト内挿術(EVAR)	40	41	39	40	41	45	53	59	73	53
■ 末梢血管形成術(EVT)	170	70	128	112	99	99	109	122	148	121

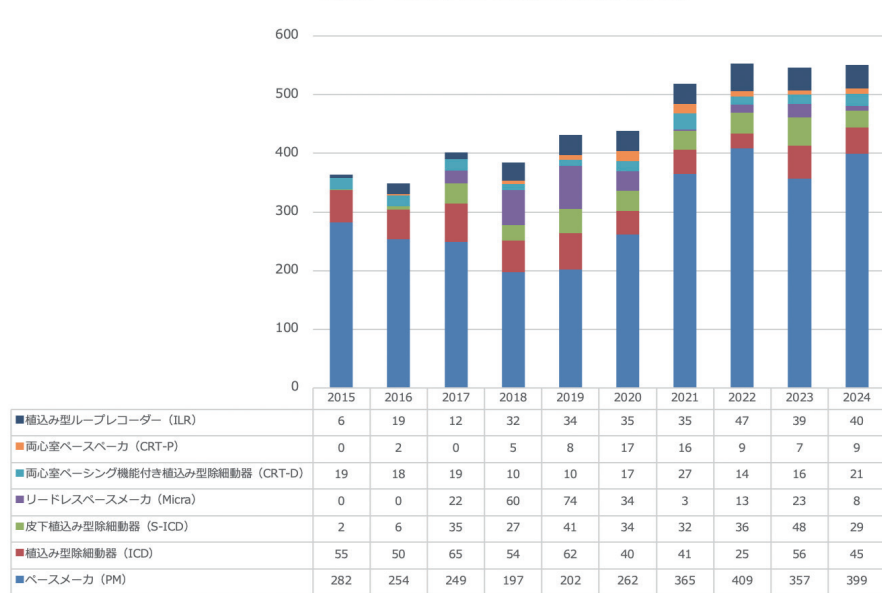
年度別 SHD (Structural Heart Disease) 構造的な疾患 治療件数

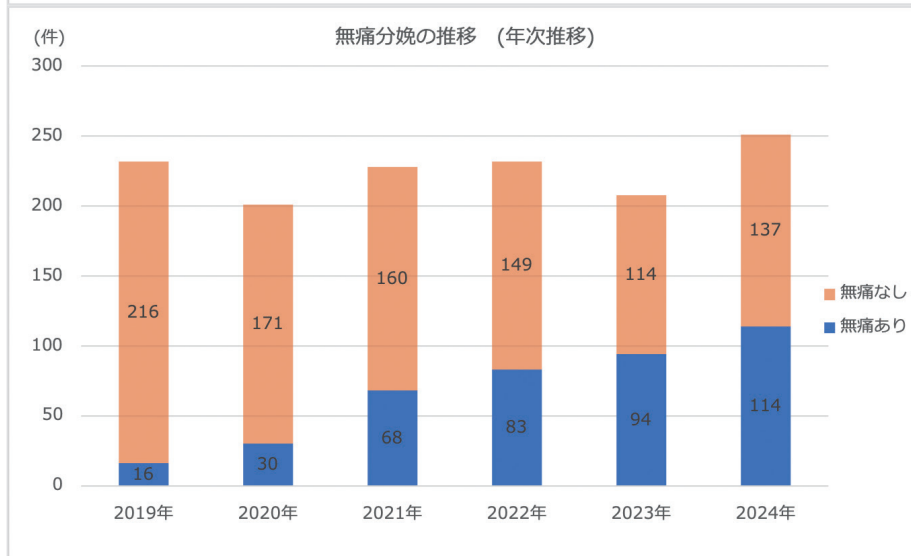
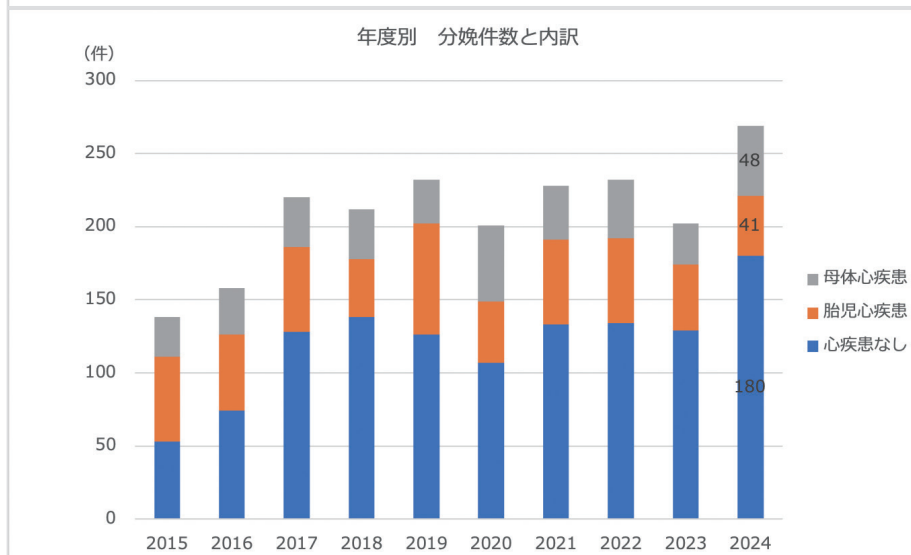
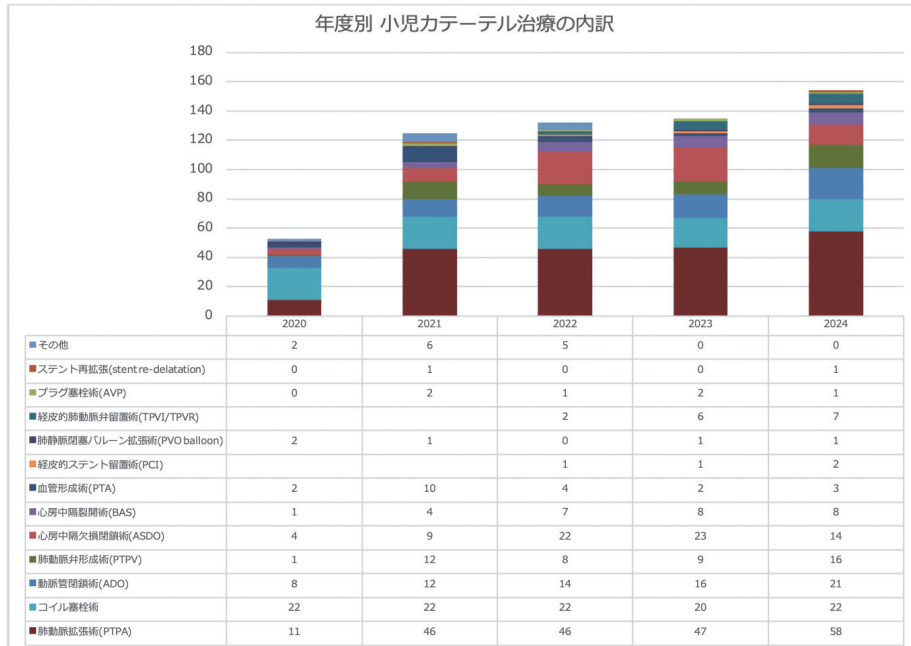


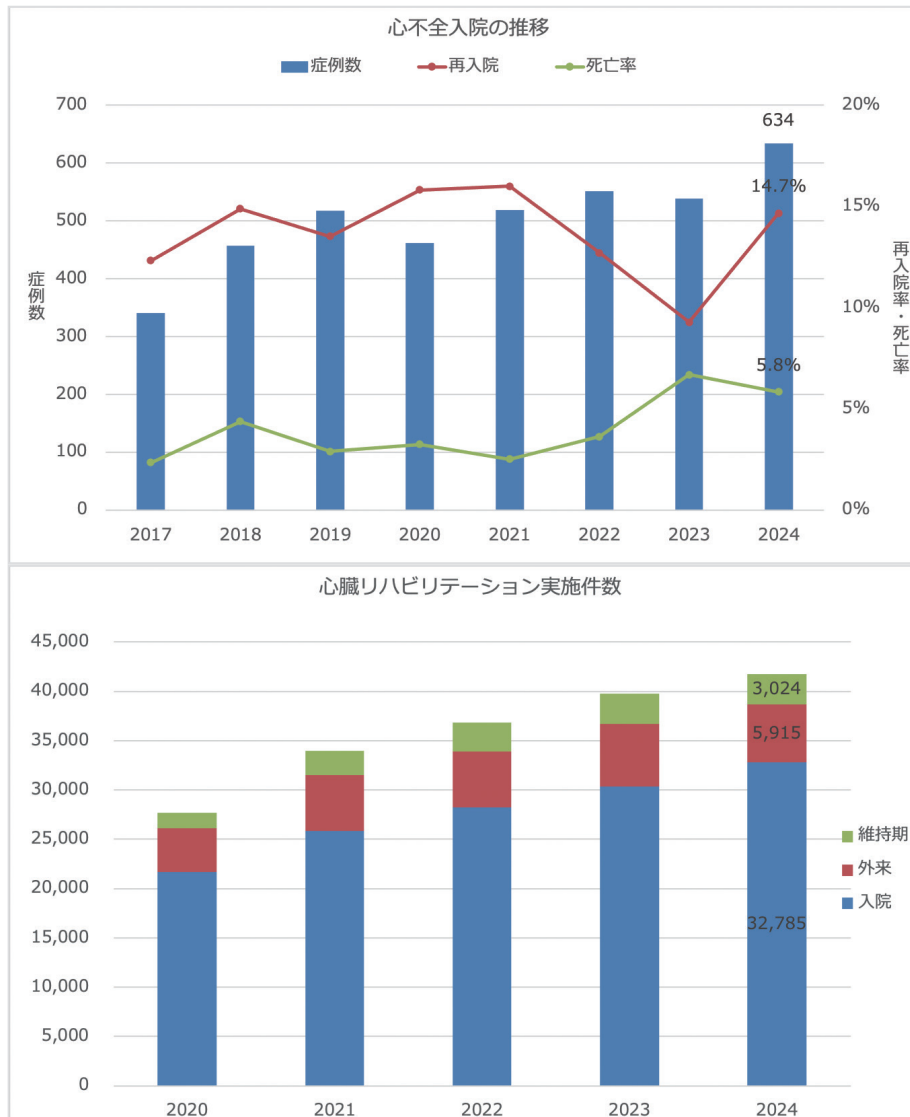
年度別 アブレーション治療の内訳



年度別 植込み型不整脈治療機器手術件数







一、安全・安心・良質な医療サービスの提供 【指定医療機関としての役割推進】

感染症法第一種協定指定医療機関（令和6年度～）

1. 概要

- インフルエンザ等感染症若しくは指定感染症の患者又は新感染症の所見がある者を入院させ、必要な医療を提供する医療機関として東京都から指定。
- 受入病床2床の確保。また、後方支援及び医療人材派遣も同様に積極的に実施。

2. 当院における主な活動

- 新興感染症の発生時を想定した地域連携に係る体制について連携病院及び医師会、保健所とともに協議／実践
- COVID-19感染症入院加療件数（年次別、実患者数）2020年次：0件 / 2021年次：9件 / 2022年次：23件 / 2023年次：80件 / 2024年次：35件

東京都周産期連携病院（令和6年度～）

1. 概要

- 周産期母子医療センターとの連携の下、ミドルリスクの妊産婦に対応する「周産期連携病院」として東京都から指定。
- 24時間体制で自院のかかりつけ以外のミドルリスク妊産婦の搬送受入れに対応するとともに、地域の診療所等からの紹介（搬送）や周産期母子医療センターからの逆紹介を受け、産科手術（帝王切開術・異所性妊娠手術等）や内科合併症のある妊婦の母体管理等を実施。

【多摩地域の周産期連携病院 7病院】

榊原記念病院、市立青梅総合医療センター、日本医科大学多摩永山病院、東海大学医学部付属八王子病院、稲城市立病院、日野市立病院、東京慈恵会医科大学附属第三病院

2. 当院における主な活動

- 2024/4～2025/1 夜間・休日診療：切迫流産63件、循環器疾患合併妊娠6件、妊娠高血圧症候群4件など

東京都難病診療分野別拠点病院（令和6年度～）

1. 概要

- 難病に関する医療提供体制の充実を図るため、東京都は平成30年4月1日から東京都難病診療連携拠点病院及び東京都難病医療協力病院を指定。
- 令和6年度から新たに特定分野の診断と専門治療に対応する「東京都難病診療分野別拠点病院」を設置。難病医療提供体制の再構築により患者の選択肢を増やし、より早期診断・早期治療の実施。

(1) 役割等

- 特定分野において、極めて稀な疾病を含む難病の早期診断・専門治療を実施
- 遺伝性疾患の診断等に十分配慮した対応
- 小児診療科から移行する患者の積極的な受入れ

(2) 都内指定病院

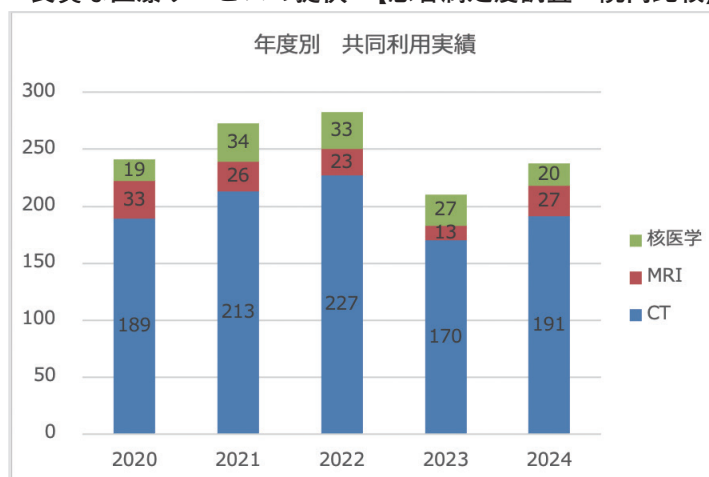
- 榊原記念病院（循環器疾患）
- 国立精神・神経医療研究センター（神経・筋疾患）

2. 当院における主な活動

2024年1～12月の診療実績 計164件（書類の発行ベース）

ライソゾーム病4件、高安動脈炎9件、特発性拡張型心筋症26件、肥大型心筋症38件、サルコイドーシス17件、肺動脈性肺高血圧症1件、マルファン症候群/ロイスディーツ症候群17件、ウィリアムズ症候群1件、多脾症候群1件、無脾症候群3件、修正大血管転位症3件、完全大血管転位症5件、単心室症2件、左心低形成症候群2件、三尖弁閉鎖症7件、心室中隔欠損症を伴わない肺動脈閉鎖症1件、ファロー四徴症13件、両大血管右室起始症8件、エプスタイン病1件、先天性僧帽弁狭窄症1件、遺伝性QT延長症候群4件)

一、安全・安心・良質な医療サービスの提供 【患者満足度調査：院内比較】



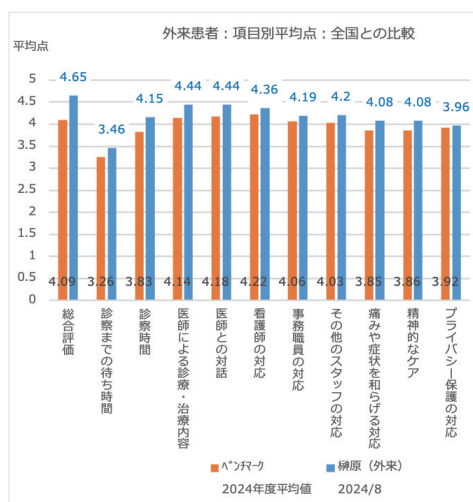
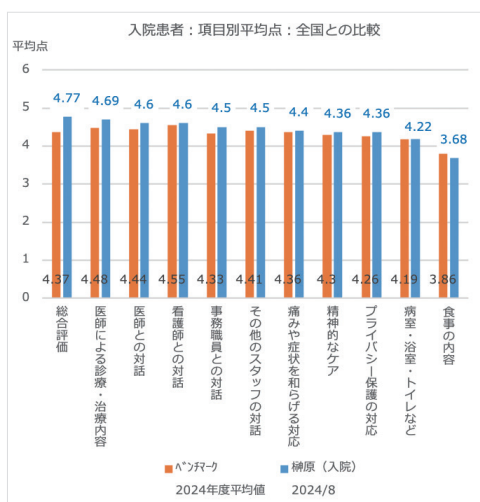
共同診療件数	0件
高額医療機器共同利用件数	CT：191件、MRI：27件、核医学：20件 【合計】238件
共同利用病床数	0
共同利用病床利用率	0.0%
共同利用施設・設備	すべての診療設備を対象としている
登録医情報	259名、235施設

一、安全・安心・良質な医療サービスの提供 【患者満足度調査：ベンチマーク比較】

2024年8月に公益財団法人 日本医療機能評価機構 病院機能評価事業の「患者満足度調査」を実施し最終報告が出た。

入院及び外来患者の調査を通じて、食事の内容以外の項目においては全国の平均値を上回る結果であった。

満足度調査に参加した病院（入院部門261施設、外来部門264施設）の中で、総合評価「親しい方にも当院をすすめようと思いますか」の項目において、**入院患者調査部門で4位、外来患者調査部門で2位**であった。

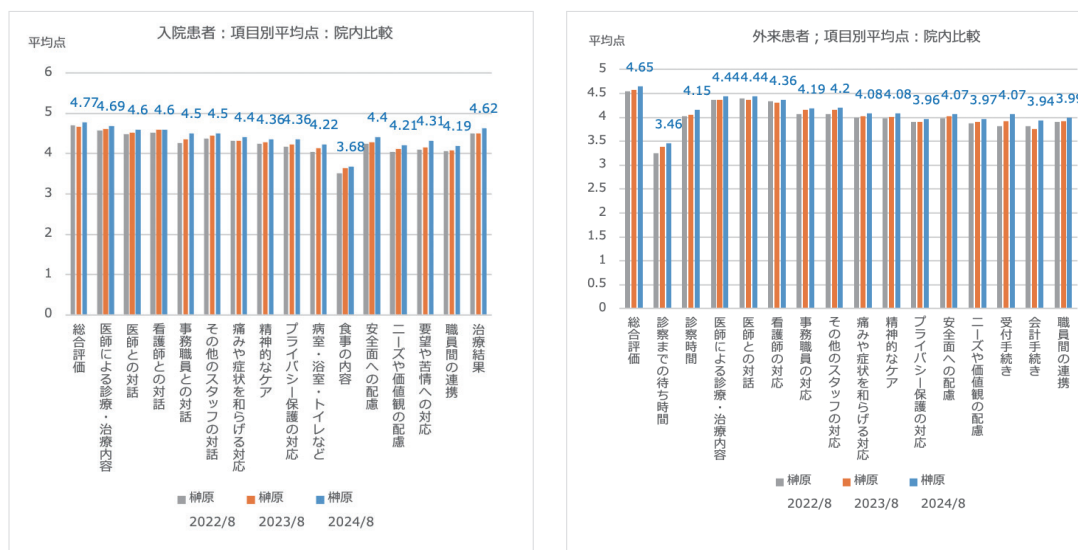


平均点:「とても満足」5点、「やや満足」4点、「ふつう」3点、「やや不満」2点、「とても不満」1点として点数化し集計した数値。

一、安全・安心・良質な医療サービスの提供 【患者満足度調査：院内比較】

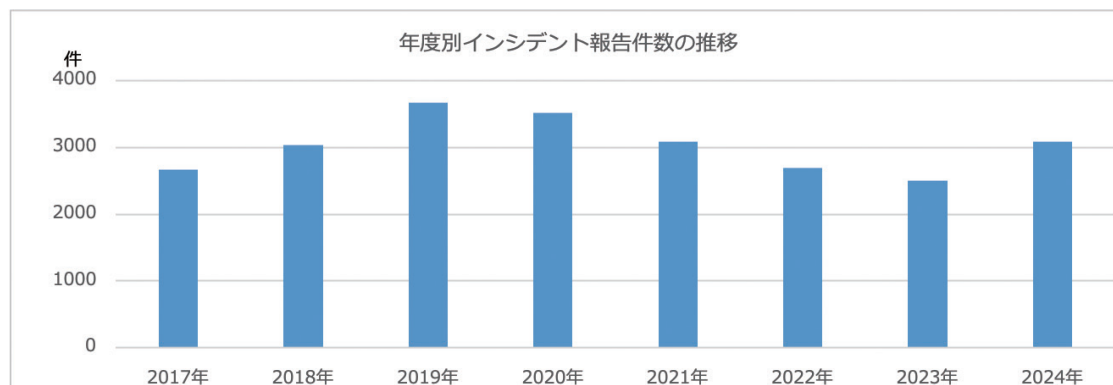
院内比較においては、入院患者の看護師の対話以外の項目においては前年度の評価を上回る結果であった。

看護師の対話についても4.6と昨年と同様の高い評価が維持された。



平均点:「とても満足」5点、「やや満足」4点、「ふつう」3点、「やや不満」2点、「とても不満」1点として点数化し集計した数値。

一、安全・安心・良質な医療サービスの提供 【医療安全管理体制】



- インシデント報告件数は3,081件であった。
- 医師のインシデント報告率を10%を目標に取り組んでおり、8.6%と年々増加傾向にある（前年度8.2%）。

報告方法や報告基準に関して薬剤科内で再周知を行い、薬剤師の報告率は3.6%（前年度1.8%）へ増加した。

一、安全・安心・良質な医療サービスの提供 【感染管理対策】

感染症法第一種協定指定医療機関（令和6年度～）

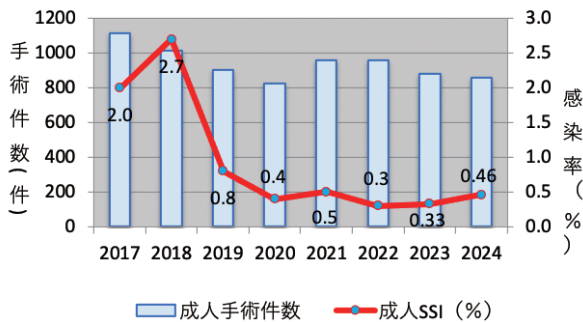
1. 概要

- 新型インフルエンザ等感染症若しくは指定感染症の患者又は新感染症の所見がある者を入院させ、必要な医療を提供する医療機関として東京都から指定。
- 受入病床2床の確保。病床確保のみだけでなく後方支援及び医療人材派遣も同様に積極的に実施。

2. 当院における主な活動

- 新興感染症の発生時を想定した地域連携に係る体制について連携病院・クリニック及び医師会、保健所とともに協議／実践（年間）/2024年度：4回参加
- COVID-19感染症入院加療件数 / 2024年度：66件

成人心臓血管外科手術部位感染率年間推移
2017年～2024年



周術期感染対策	2024年度
手術部位感染率 (%)	0.46
尿道留置カテーテル感染率 (%)	0.21
中心静脈カテーテル感染率 (%)	8月より開始
術前抗菌薬 CEZ 使用率 (%)	100
*周術期感染対策のサーベイランスでは、全て低値となり術前抗菌薬も適切に使用されている状況	

*2018年度より手術部位感染の取り組みを開始

【熱水自動洗浄装置（ベッドパンウォッシャー）2台更新】

対象病棟：5階2病棟、4階3病棟

熱水自動洗浄装置の耐用年数が過ぎ、年間故障／修理回数も増加しているため、使用頻度の高い病棟から2台更新。

一、安全・安心・良質な医療サービスの提供 【病院機能評価受審準備】

公益財団法人 日本医療機能評価機構による病院機能評価受審のため、改善計画を進めている。

- 受審機能種別：一般病院2, 区分3<3rdG:Ver.3.0>
- 4つの領域、88の中項目ごとに構成員／担当者を配置して、業務・質改善に取り組んでいる。

第1領域：患者中心の医療の推進	患者の視点に立った良質な医療を実践するうえで求められる病院組織の基本的な姿勢について。また、患者の安全確保や医療関連感染制御などに向けた病院組織の検討内容、意思決定について評価する。
第2領域：良質な医療の実践1	病院組織として決定された事項が、診療・ケアにおいて確実かつ安全に実施されていることを評価する。
第3領域：良質な医療の実践2	確実に安全な診療・ケアを実践するうえで求められる機能が、各部門において発揮されていることを評価する。
第4領域：理念達成に向けた組織運営	良質な医療を実践するうえで基盤となる病院組織の運営・管理状況について評価する。

2024/11/25 模擬審査受審済み（サーベイヤ 3名）

2025/6/24・25 本審査受審予定（サーベイヤ 6名）

一、安全・安心・良質な医療サービスの提供 【その他】

<p>2024/5/13</p> <p>FC東京小林将天 選手、日本プロサッカー選手会 副会長 権田修一 選手が「ドナルド・マクドナルド・ファミリールーム 榊原記念病院」を訪問し、入院されている子どもたちやご家族と交流された。</p>	
<p>2024/12/10</p> <p>東京ヤクルトスワローズ選手による病院表敬訪問 内野手 宮本 丈 選手、外野手 丸山 和郁 選手が来院された。</p>	
<p>2024/12/19</p> <p>小児病棟クリスマス会 チャリティイベント「サンタパレード東京」が開催され、当院に入院中の子どもたちにクリスマスプレゼントを届けてくれた。 武蔵野美術大学の学生さんによる工作キットを使用したワークショップも開催した。また、今年はアンバサダーとしてコリラックマの参加があり、P/NICU と外来で記念撮影会を行った。</p>	

二、その他 【患者・市民への啓発活動の継続、発展】

東京 脳卒中・心臓病等総合支援センターの活動


開催日	件名	テーマ	主催	共催	後援	会場参加	WEB参加	合計
2024/5/25	第3回 肥大型心筋症(HCM)の患者さん・ご家族向けセミナー		肥大型心筋症センター	榊原記念財団研修所		100	-	100
2024/7/21	2024心臓を守る親子教室	病院を探検しよう！医療のお仕事を体験してみよう！	榊原	日本医科大学付属病院/ 武蔵野赤十字病院	東京都医師会、府中市、府中市医師会、日本心臓財団、健康ハートの日実行委員会、心臓弁膜症ネットワーク	60組	-	120
2024/10/12	2024心臓を守るお料理教室	心腎連関～腎臓を守ろう～	榊原	日本医科大学付属病院/ 武蔵野赤十字病院	東京都医師会、府中市、府中市医師会、日本心臓財団	34	-	34
2024/12/13	2024心臓を守る運動教室	ハートフルライフ：心臓病予防のための新習慣	榊原	日本医科大学付属病院/ 武蔵野赤十字病院	東京都医師会、府中市、府中市医師会、日本心臓財団	30	-	30
2025/1/18	2024心臓を守るお薬教室	心不全ってなに？！～上手にお薬を飲むコツ～	榊原	日本医科大学付属病院/ 武蔵野赤十字病院	東京都医師会、府中市、府中市医師会、日本心臓財団	30	-	0
2024/11/2	ACHD ピアサロン	MY ハートマスターになろう！	榊原	東京 脳卒中・心臓病等総合支援センター 成人先天性疾患センター 心臓病総合支援センター		31	-	31
2024/11/30	市民公開講座	心臓病・脳卒中～ならないために、もしものために～	東京脳卒中・心臓病等総合支援センター	-	東京都医師会、日本心臓財団、日本循環器学会、日本脳卒中協会東京支部	80	-	80
2024/12/4	心臓病の両立支援をはじめよう ネットワークの設立				東京都医師会、日本心臓財団、日本循環器学会、日本心不全学会	-	509	509

市民公開講座等

2024/5/25

府中市医師会主催市民健康講演会「HPV ワクチン・子宮頸がん～大切な未来のために」産婦人科 井澤美穂先生が講演した。


過去の HPV ワクチン接種後の症状等の報道の影響で、接種を心配されている保護者・ご本人に分かりやすく、①子宮頸がん② HPV ワクチンの効果・安全性について講演した。



2024/7/6

「Jリーグ×健康ハートの日
「ハートはともだち～ほめてあげよう、自分のハート～」
会場の大型ビジョンで心臓病予防の啓発動画を試合前とハーフタイムに放映された。


- ・ 予防啓発サイトの紹介（Jリーグ×健康ハートの日のロゴ入り特製カード配布）
- ・ 心臓病予防に関するアンケート実施（来場者を対象にボードに回答シールを貼付）
- ・ パンフレット配布



2024/11/29

市民公開講座「知って動いて心臓病を予防しよう」

- ・ 講演「心臓病の治療と予防～生活を通して心臓病を予防しよう」循環器内科 部長 中山 敦子
- ・ 講演「健康づくりのための貯筋のススメ」リハビリテーション科 副主任 今一騎
- ・ 実技「貯筋のススメ実践編」セントラルスポーツ（株）アカデミー一部介護予防運動 指導員 スタジオプログラム統轄 小方 みゆき 先生



二、その他 【医療従事者向け教育・啓発活動の継続、発展】

神明台ハートセミナー

日時	演題名	講師_施設	講師_所属	講師_氏名	参加人数
2024/4/19	冠動脈不安定プラークの可視化と破綻予防を目指して～包括的管理の重要性と残余リスク介入の意義～	順天堂大学	医学部 循環器内科	土肥智貴	36
2024/5/17	日本は高血圧治療後進国？～見つけるところから始める高血圧治療のはじめ～	愛知医科大学	循環器内科 講師	後藤礼司	50
2024/6/21	生活習慣を科学する～便秘と動脈硬化症 動脈硬化症も細胞と分子	横浜市立大学附属病院	循環器内科 診療教授	石上友章	30
2024/7/19	冠微小循環障害とは？“ミエナイ”血管たちに思いをはせる	NTT 東日本関東病院	循環器内科 虚血性心疾患グループ主任	割澤高行	52
2024/9/20	心不全に伴う心房細動と抗凝固療法	東京慈恵会医科大学	臨床薬理学 教授	志賀剛	52
2024/10/18	胸痛に役立つ漢方薬の使い方～冠攣縮性狭心症と冠微小循環器傷害の診断と治療の理解を深めるために～	新神戸きたむら内科 循環器・漢方クリニック 島根大学	院長 臨床教授	北村順	46
2024/11/15	ACSの二次予防のために必要なこと・・・キーワードは「医者ガチャ」「OIL」	聖隷三方原病院	循環器科 医長	宮島佳佑	43

※ WEB 参加者は未集計。

小児・周産期 webinar シリーズ

①ボストン小児病院・榊原記念病院共催 小児循環器病 webinar シリーズ

開催日	テーマ	講師	参加人数
2024/9/25	【4ch1】 右室・左室・房室弁狭窄の簡単な同定	浜道裕二	61
2024/10/23	【4ch2】 総肺静脈還流異常はカラー+ PW 波形で	浜道裕二	38
2024/11/27	【4ch3】 完全房室中隔欠損は拡張期に	浜道裕二	31
2024/12/25	【4ch4】 左心低形成& フォンタン循環 基礎の基礎	浜道裕二	23
2025/1/22	【流出路1】 正常流出路は交差する	浜道裕二	25
2025/2/26	【流出路2】 大血管転位は並列走行する	浜道裕二	18
2025/3/26	【流出路3】 ファロー四徴の大動脈騎乗と肺動脈狭窄	浜道裕二	24

②基礎から始める 胎児心エコー webinar シリーズ

開催日	演題名	症例報告	参加人数
2024/04/18	Ventricular septal defects	和田直樹	89
2024/05/16	Segmental approach to congenital heart disease	嘉川忠博	89
2024/06/20	小児心カテーテル検査の基本	矢崎諭	70
2024/07/18	Pre operative and post operative management of single ventricle in neonates	嘉川忠博	61
2024/08/15	小児の心臓移植	竹平健	60
2024/09/19	Neonatal emergencies; TGA, obstructed TAPVR, and HLHS with IAS	嘉川忠博	50
2024/10/17	成人先天性心疾患入門	和田直樹	64
2025/03/13	truncus arteriosus	小森悠矢	32

心不全サポート事業 看護・介護関係者向け研修会

日付	カテゴリー	内容/テーマ	対象者	参加人数	参加者職種/貸出医療機関数 (Vscan 貸出)
2024/4/20	第1回 看護・介護関係者向け研修会	地域全体で心不全患者さんに寄り添うためにできること	地域包括支援センター、訪問看護ステーション、介護福祉施設等に勤務する看護・介護職員	54名	【参加者職種】 ①医師 ②看護師 ③介護支援専門員 ④薬剤師 ⑤理学療法士 ⑥作業療法士 ⑦MSW ⑧その他(介護福祉士、連携室等)
2024/6/15	第2回 看護・介護関係者向け研修会	心不全患者さんの<食>	地域包括支援センター、訪問看護ステーション、介護福祉施設等に勤務する看護・介護職員	48名	
2024/8/23	第3回 看護・介護関係者向け研修会	心不全患者さんのシック・デイ対策	地域包括支援センター、訪問看護ステーション、介護福祉施設等に勤務する看護・介護職員	55名	
2025/1/11	第4回 看護・介護関係者向け研修会	再入院せずに冬を乗り切る！	地域包括支援センター、訪問看護ステーション、介護福祉施設等に勤務する看護・介護職員	45名	
2024/12/7	看護・介護関係者向け研修会 ＜事例検討会＞	キーパーソン不在!? 認知症・末期心不全患者の在宅生活支援を考える	地域包括支援センター、訪問看護ステーション、介護福祉施設等に勤務する看護・介護職員	26名	
2025/3/19	第5回 看護・介護関係者向け研修会	地域連携のツールを地域全体で活用するために	地域包括支援センター、訪問看護ステーション、介護福祉施設等に勤務する看護・介護職員	45名	

心不全サポート事業 北多摩南北医療圏地域連携交流会

日付	カテゴリー	内容 / テーマ	対象者	参加人数	参加者職種 / 貸出医療機関数 (Vscan 貸出)
2024/5/9 ～5/22 (計4日間)	携帯型心エコーを在宅医療に活用するプロジェクト	携帯型心エコーの在宅医療での活用方法 (ハンズオンセミナー)	同プロジェクトに参加する訪問診療	不明	貸出医療機関数: 4
2024/6/26	北多摩南北医療圏地域連携交流会 ◀第2回 Heartlink ▶		北多摩北部・南部医療圏内の循環器急性期診療に携わる病院の職員	23名	【参加者職種】 ①医師 ②看護師 ③薬剤師 ④理学療法士 ⑤作業療法士 ⑥管理栄養士 ⑦社会福祉士 ⑧臨床工学技士 ⑨ MSW
2024/7/23	北多摩南北医療圏地域連携交流会 ◀第3回 Heartlink ▶		北多摩北部・南部医療圏内の循環器急性期診療に携わる病院の職員	42名	
2024/10/23	北多摩南北医療圏地域連携交流会 ◀第4回 Heartlink ▶		北多摩北部・南部医療圏内の循環器急性期診療に携わる病院の職員	25名	
2024/12/19	北多摩南北医療圏地域連携交流会 ◀第5回 Heartlink ▶ & 懇親会		北多摩北部・南部医療圏内の循環器急性期診療に携わる病院の職員	33名	
2025/1/23	心不全療養指導士交流会 ◀ Heartlink ▶	心不全療養指導～私たちはこんな工夫をしています～心不全療養指導士からのメッセージ	主に東京都内に在籍の心不全療養指導士および心不全診療に関わる医療従事者	71名	

当院の医師派遣による技術指導；延べ40施設、指導件数 / 延べ64件

医療機関名称	指導内容
自衛隊中央病院 (2件)	S-ICD 技術指導
かわぐち心臓呼吸器病院 (2件)	MitraClip 技術指導
総合病院 土浦協同病院 (1件)	エキシマレーザー心内リード抜去術臨床指導
市立青梅総合医療センター (3件)	TAVI 技術指導
心臓病センター榊原病院 (1件)	MitraClip ワークショップ講師
山梨大学医学部附属病院 (3件)	アブレーション技術指導
東北大学病院 (2件)	ASD カテーテル治療指導
自治医科大学さいたま医療センター (2件)	エキシマレーザー心内リード抜去術臨床指導
岩手県立中央病院 (4件)	エキシマレーザー心内リード抜去術臨床指導
順天堂大学医学部附属静岡病院 (3件)	MitraClip 技術指導
順天堂大学医学部附属病院 (2件)	MitraClip 技術指導
フクダ電子東京販売株式会社 (1件)	ハンズオンセミナー講師
近森病院 (1件)	PFO 閉鎖 プロクター
群馬大学医学部附属病院 (2件)	MitraClip 手技指導
東大和病院 (2件)	S-ICD 技術指導
岡山ハートクリニック (1件)	PulseSelect 技術指導
川崎幸病院 (2件)	PulseSelect 技術指導
宮崎市郡医師会病院 (1件)	PulseSelect 技術指導
モンゴル国立第三病院 (1件)	カテーテルアブレーション技術指導
水戸済生会病院 (2件)	ペースメーカー抜去プロクター
山形大学医学部附属病院 (1件)	MitraClip プロクター (難治症例)
河北総合病院 (1件)	ICLS ディレクター
埼玉医科大学国際医療センター (1件)	PFO 閉鎖
大垣市民病院 (2件)	PASCAL Precision システムプロクターリング、エキシマレーザー心内リード抜去システム症例指導
埼玉県立循環器・呼吸器病センター (1件)	PTSMA 技術指導
立川総合病院 (3件)	MitraClip 技術指導
浜松医科大学医学部附属病院 (2件)	MitraClip 技術指導
横須賀市立うわまち病院 (1件)	MitraClip 技術指導
岡村記念病院 (1件)	PulseSelectPFA プロクター
慶應義塾大学病院 (1件)	AmplatzerPFO プロクター
公立昭和病院 (1件)	PulseSelect 技術指導
国立病院機構 静岡医療センター (1件)	Farapulse 技術指導
JA 長野厚生連 佐久総合病院 佐久医療センター (1件)	Mitra Clip 技術指導 (難治症例)
東京西徳洲会病院 (1件)	S-ICD プロクター
浜松赤十字病院 (1件)	Farapulse 技術指導
富山大学附属病院 (1件)	Farapulse 技術指導
さいたま赤十字病院 (1件)	PTMC
福島県立医科大学会津医療センター付属病院 (1件)	Mitra Clip 技術指導
虎の門病院 (1名)	Mitra Clip 技術指導
東京科学大学病院 (3件)	Mitra Clip 技術指導

医師の見学受け入れ；延べ 109 施設、延べ 173 名

《内訳》

循環器内科 97 名、心臓血管外科 45 名、小児循環器内科 10 名、産婦人科 3 名、麻酔科 6 名、放射線科 1 名、集中治療科 1 名、その他 10 名

医療機関名			
上尾中央総合病院	東京警察病院	札幌孝仁会記念病院	静岡県立総合病院
徳島大学病院	公立昭和病院	順天堂大学順天堂医院	昭和大学
千葉西総合病院	金沢医科大学病院	昭和大横濱市北部病院	新久喜総合病院
上天草市立上天草総合病院	伊勢崎市民病院	東京都立多摩総合医療センター	東京都立多摩南部地域病院
浜松医科大学	岡村記念病院	筑波大学附属病院	帝京大学医学部附属病院
立川総合病院	かわくち心臓呼吸器病院	東海大学	東京女子医科大学附属足立医療センター
日本赤十字社医療センター	三菱京都病院	東京大学	東京都立小児総合医療センター
新百合ヶ丘総合病院	いわき市医療センター	東邦大学医療センター大森病院	東北大学
松波総合病院	済生会熊本病院	虎ノ門病院	都立大久保病院
練馬光が丘病院	自治医科大学附属病院	成田赤十字病院	日本医科大学付属病院
高崎総合医療センター	福島県立医科大学会津医療センター付属病院	日本医科大学武蔵小杉病院	八戸市立市民病院
東京ベイ浦安市川医療センター	横須賀市立総合医療センター	日野市立病院	深谷赤十字病院
天理よろづ相談所病院	昭和大学病院	福岡大学病院	福山市民病院
三井記念病院	aoi 国際病院	北海道大学病院	松戸市立総合医療センター
高知大学医学部附属病院	JCHO 中京病院	三重県立総合医療センター	水戸協同病院
東京科学大学病院	池上総合病院	武蔵野赤十字病院	横浜南共済病院
さいたま赤十字病院	岩手県立中部病院	虎の門病院	札幌白石記念病院
東京都立墨東病院	旭川医科大学病院	三重大学医学部附属病院	山梨大学医学部附属病院
大森赤十字病院	山梨県立中央病院	市立青梅総合医療センター	順天堂大学医学部附属静岡病院
東大和病院	慶應義塾大学病院	湘南鎌倉総合病院	心臓血管センター金沢循環器病院
府中恵仁会病院	山梨大学医学部附属病院	新行橋病院	イムス葛飾ハートセンター
日本医科大学多摩永山病院	東京医科大学	東京慈恵会医科大学附属病院	東京慈恵会医科大学附属柏病院
自治医科大学附属さいたま医療センター	愛媛県立中央病院	愛知医療センター名古屋第二病院	名古屋済済会病院
鹿児島医療センター	川崎幸病院	亀田総合病院	横須賀市立市民病院
京都医療センター	久留米大学	National Heart Centre Singapore	Hue Central Hospital
神戸市立医療センター中央市民病院	国保旭中央病院	Shandong Provincial Hospital	
国立循環器病センター	災害医療センター	Beijing Anzhen Hospital, Capital Medical University	
済生会横浜市南部病院	済生会和歌山病院		
埼玉県立小児医療センター	佐久総合医療センター		

研修医師・学生実習の受け入れ；20 施設、延べ 40 名

医療機関名	医療機関名
杏林大学（循環器内科研修3名）	災害医療センター（麻酔科研修1名）
金沢医科大学（循環器内科研修1名）	東京医科大学（循環器内科研修1名）
日本医科大学千葉北総病院（循環器内科研修1名）	東京大学医学部附属病院（放射線科研修1名）
聖マリアンナ医科大学（小児科研修1名）	JCHO 東京新宿メディカルセンター（放射線科研修1名）
武蔵野赤十字病院（産婦人科研修2名 / 臨床遺伝科研修1名）	貝原レディースクリニック（臨床遺伝科研修2名）
アルテミスウィメンズホスピタル（産婦人科研修1名）	慶應義塾大学（学生実習 / 循環器内科3名）
日本医科大学多摩永山病院（産婦人科1名）	東京大学（学生実習 / 循環器内科1名・成人外科・小児外科1名）
横浜旭中央総合病院（麻酔科研修2名）	杏林大学（学生実習 / 小児外科研修6名）
AOI 国際病院（麻酔科研修1名）	NPO 法人子ども療養支援協会（学生実習 / 小児科2名）
日本医科大学武蔵小杉病院（麻酔科研修3名）	聖学院大学（学生実習 / 心理実習4名）

特定行為研修 指定研修機関



全21区分（38行為）のうち2区分（循環動態に係る薬剤投与関連、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連）の研修を行っており、6名が修了した。



その他活動

	第 53 回多摩地区 虚血性心疾患研究会を開催しました。
2024/6/22	多摩虚血は、多摩地区の循環器医療を支える 24 病院が参加する症例検討を中心とした研究会です。 当院が主催した今回は、医師及びメディカルスタッフ 67 名が参加し、当院からの 4 演題を含む 15 演題が発表されました。当日は CD ホールのみでは収容しきれず、B ホールまで使用する盛会となりました。
	Cardiovascular Centre of Excellence Visitation Program
2024/8/28・29	海外の先生方（中国 2 名、シンガポール 1 名、ベトナム 1 名）向けの見学会を開催した。 参加された先生方より、沢山の症例について見学する事ができ、レクチャー等も含めとても得るものが大きかったとの感想をいただいた。
	第 1 回 榊原記念病院 小児循環器セミナー
2024/9/7	小児医療に携わる医師（内科・外科・集中治療科）、その他医療従事者を対象に、小児循環器セミナーを開催した。 《テーマ》 PA/IVS（純型肺動脈閉鎖） 《参加者》 11 名（その他、院内職員を含む自己研鑽参加 8 名） 《主催》 小児循環器内科、小児心臓血管外科、集中治療科（小児）
	Cardiac vascular surgery Academy Basic Course
2024/9/20・21	医師 4 年目～ 10 年目までを対象とした手術見学セミナーを開催した。

二、その他 【災害対策の推進】

	《消火器訓練》	
2024/6/25・27	府中消防署朝日出張所の隊員ご指導のもと、水消火器での放射訓練を行った。 看護部新入職員約 40 名が参加した。	
	《自衛消防訓練》	
2024/7/5	病棟内での地震と火災を想定した自衛消防訓練を実施した。	
	《府中市合同大規模災害対策訓練》	
2024/11/2	被害想定：震度 6 弱、エレベーター使用不可、PHS 使用可、HIS 使用可、外線電話不可、FAX 使用不可 訓練内容：本部訓練・病棟訓練、テント設営訓練、トリアージ訓練 府中消防署・地元自治体・府中警察署・赤十字奉仕団の方にご協力いただいて訓練を行った。	

二、その他 【執筆・取材・表彰等】

2024/4/30	医療関係者向け月刊誌「集中」において、患者と医療従事者に優しい環境をつくる病院として掲載された。 (月刊誌「集中」Art in Hospital 2024年4月30日発行)
2024/6/12	府中市 救急業務連絡協議会にて、救急業務に功労のあった医療機関として高見澤格 循環器内科部長、辻 孝子 看護師長が府中消防署より表彰された。
2024/6/29	放射線科 大滝裕香先生が第25回 日本心臓核医学会 学会賞に選出された。心臓核医学領域における顕著な業績が認められたもので、さらに台湾で開催された核医学学会で、招待講演をした。 【演題】「The Impact of AI-Enhanced Nuclear Cardiology for Accurate Diagnosis and Risk Prediction」 【内容】心臓核医学におけるAIの臨床応用の可能性や有用性について
2024/7/11	循環器内科 岡部浩哉 先生が、TOPIC2024のPCI Case Competitionにおいて最優秀賞を受賞された。TOPICは2003年から毎年7月に渋谷にて開催されているPCI、EVT、SHD インターベンションに関するライブデモンストレーションである。
2024/9/9	肥大型心筋症センター長 高山守正先生が、2024年9月9日(月)に「令和6年度救急医療功労者厚生労働大臣表彰」で表彰された。これは厚生労働大臣が、都道府県知事の推薦のもと、長年にわたり地域の救急医療の確保や救急医療対策の推進、また、地域のお産を支え産科医療に貢献した個人や団体、医療機関の功績を称えるものである。
2024/10/26	循環器内科 中山敦子先生が主体として取り組まれた「遠隔心臓リハビリテーション」(遠隔心リハ)の活動について、社会課題を解決する日本発の優れた取り組みとして文部科学大臣賞が授与された。持続可能な開発目標(SDGs)の達成に貢献することを目的として、科学技術・イノベーション(Science, Technology and Innovation: STI)を用いて社会課題を解決する日本発の優れた取り組みとして表彰された。
2024/11/21	循環器内科 泉佑樹先生が執筆・編集された『循環器内科医のための経食道心エコー』(出版社:羊土社 頁数:287頁、B5判、定価8,800円)が発行された。
2025/1/15	『大塚薬報 No.802』ちょっと拝見359 全国の病院や医師を紹介するカラー5ページの特集ページに、循環器専門病院としての実績、心臓病総合支援センターを中心とした院内外の多岐に渡る業務、心臓リハビリテーション、経営改革に関して紹介された。
2025/3/10	『心アミロイドーシス 病態と治療、画像診断の最前線』(出版社:ライフサイエンス出版、頁数:76頁、B5判、定価3,200円)が発行された。 ＜World's Best Specialized Hospitals＞に心臓外科・循環器科部門で優れた病院として選出された。Newsweek社とStatista社が共同で調査を行っており、世界20カ国以上を対象に、12の専門分野(循環器科等)から、何万人もの医療専門家(医師、ヘルスケア専門家、病院管理者)が参加した世界規模の調査に基づいて最も優れた病院を選出し、表彰するものである。



三、経営基盤の確立 【手当の新設・改正】

2024年6月～

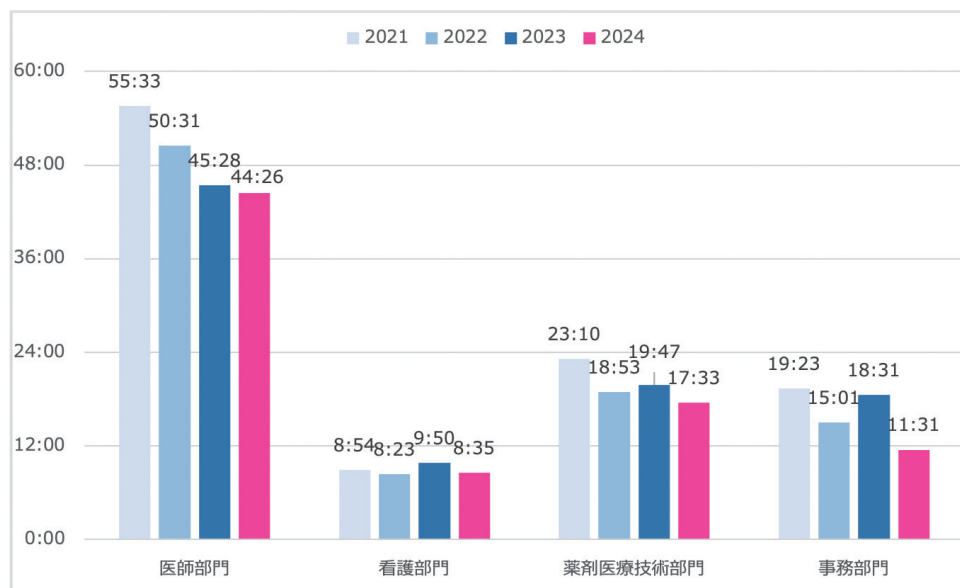
<input type="checkbox"/> ベースアップ手当の新設	医療従事者処遇改善の政府方針・他施設の状況・人材確保の困難性等を踏まえ 【ベースアップ手当】
<input type="checkbox"/> 看護師・コメディカルの待機手当・当直手当の改定	夜間・休日の勤務に対する処遇改善（当該手当の医師分は既に実施済） 【待機手当】【当直手当】
<input type="checkbox"/> 医師夜勤手当の新設	集中治療室の施設基準の変更に対応するため、医師の交替制勤務を導入 【医師夜勤手当】
<input type="checkbox"/> 事務職・コメディカルの役職手当の改定	役職間・職種間の役職手当額のバランスを踏まえ 【役職手当】
<input type="checkbox"/> 時給制職員の時間給の改定	正職員との均衡等を踏まえ、原則として増額
<input type="checkbox"/> 経営状況を踏まえた賞与基準による賞与の増額	夏季賞与基本

2024年7月～

<input type="checkbox"/> 緊急処置手当の改定 (看護師・コメディカルの追加)	管理監督者である役職者が、呼出を受け、手術及び処置等を行った場合にも支給 【緊急処置手当の改定（看護師・コメディカルの追加） 看護師 薬剤医療技術部門
<input type="checkbox"/> 特殊勤務手当の改定	【特殊勤務手当の改定】

三、経営基盤の確立 【時間外労働時間の推移】

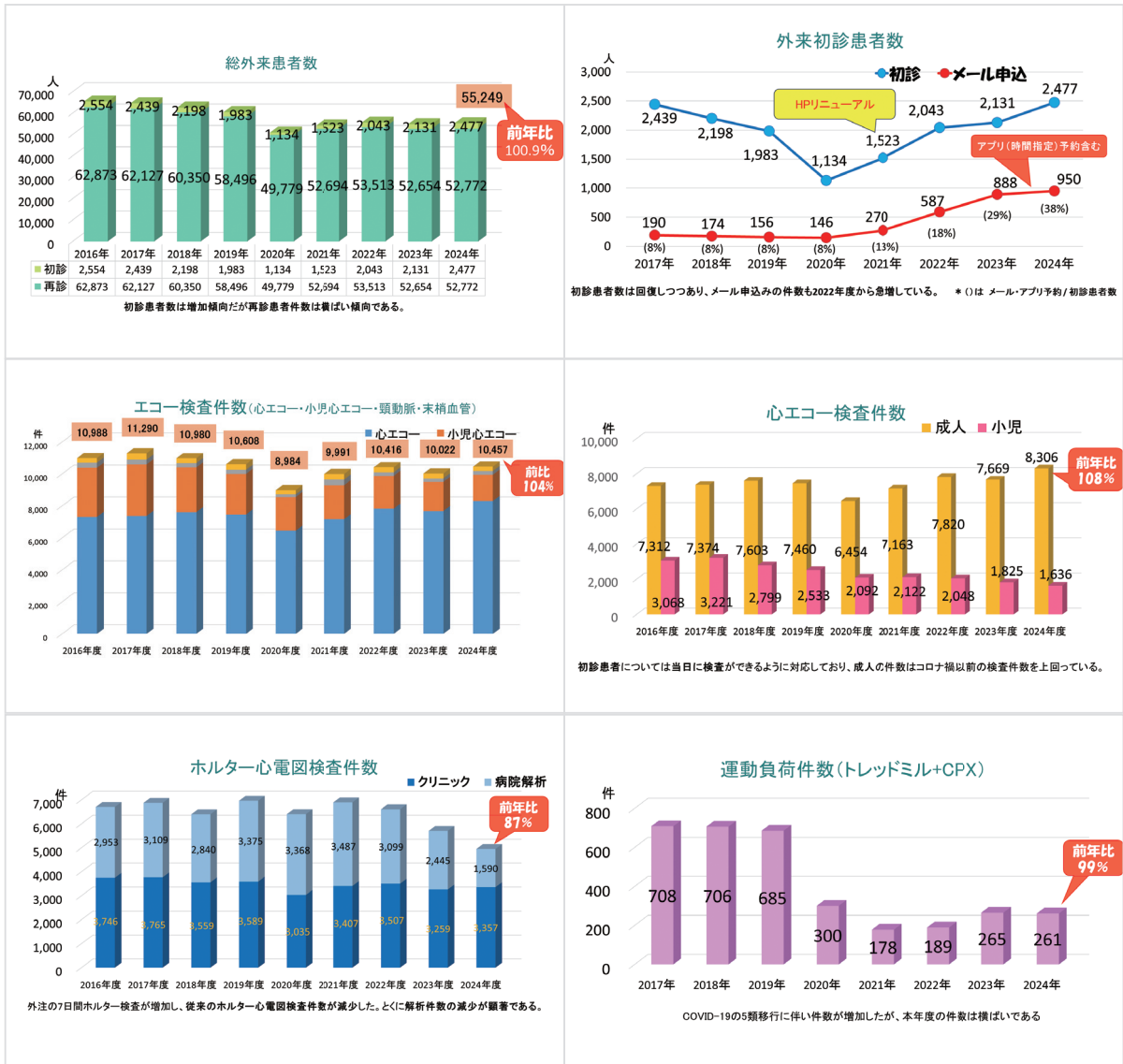
* 時間外労働時間については管理職を除く



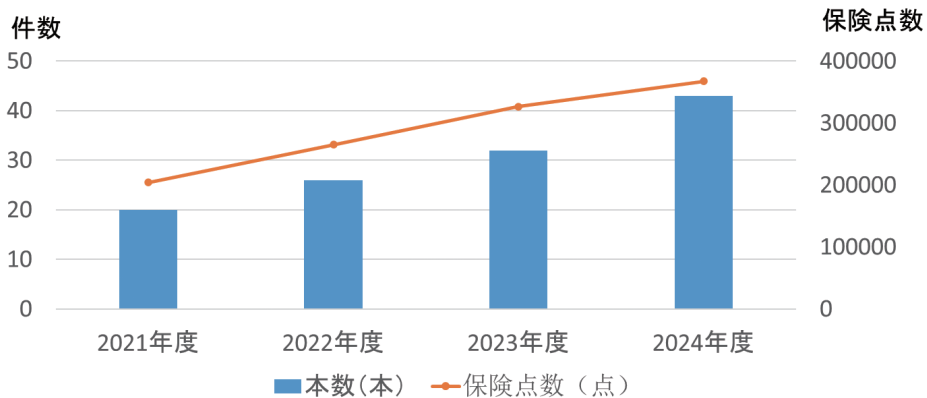
(B) 榊原記念病院附属クリニック (院長：理事 井口信雄)

1. 医療提供

(1) 診療実績



下肢静脈瘤高周波手術 (日帰り)

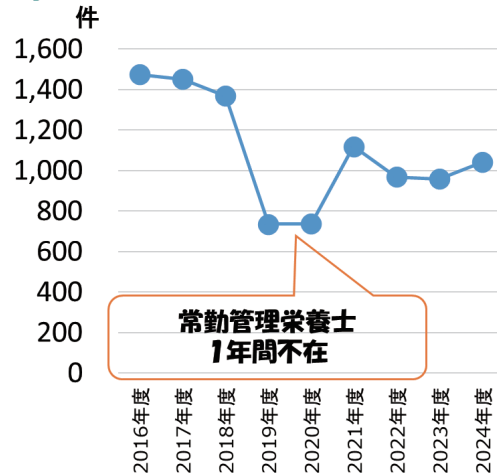


下肢静脈瘤の高周波治療は年々件数が増加しており、2024年度は大幅な増加が認められた。

栄養指導

年度	個人	集団	ドック	合計
2016	1,269	85	120	1,474
2017	1,222	69	161	1,452
2018	1,064	71	233	1,368
2019	509	53	173	735
2020	687	0	50	737
2021	1,038	0	81	1,119
2022	864	0	105	969
2023	883	17	59	959
2024	934	22	86	1042

コロナ禍は集団指導を実施できず



コロナの5類移行に伴い集団栄養食事指導を再開しているが、参加者はわずかに増加した。

専門外来

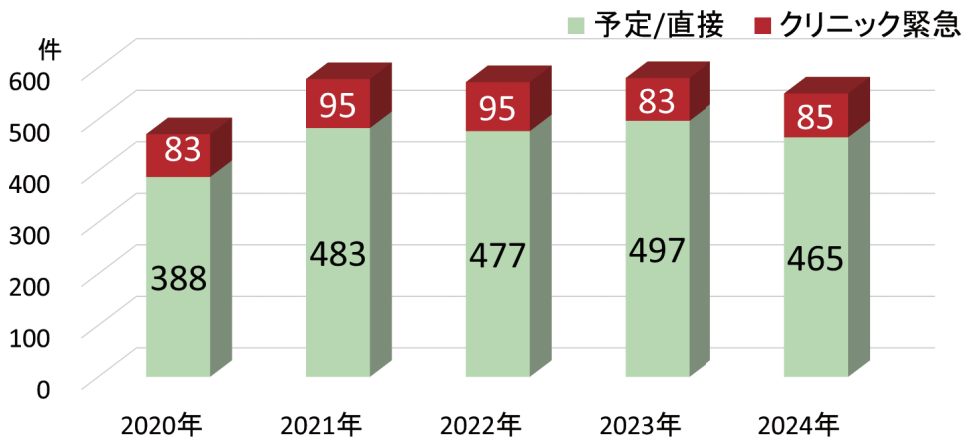
診察室	月		火		水		木		金		土	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1	堀川	住吉	堀川	堀川	堀川	高見澤	堀川	吉川	志賀			高山(啓)
2	安部	安部	上田	上田	上田	上田	川城	安部	安部	安部	安部	安部
3	薄井	前川原	阿部(達)	薄井	安部	薄井	薄井	薄井	薄井	薄井	古川	薄井
4	井口		阿部	井口	吉川	吉川	井口	井口	阿部	橋目	森崎	井口
5	高良	安武	高良	中野七里	高良	高良	三森	高良	鈴木	高良	高良	安武
6			高山	高山	梅村	梅村	磯部	磯部	岩倉	岩倉	古川	江口
7			前嶋	中野	梅村		住吉		辺	井上	橋田	高橋
8	鈴木	辺	鈴木	鈴木	辺	鈴木	鈴木	関(信)	辺	辺	鈴木	辺
9	高橋	高橋	安部	高橋	小池	高橋	高橋	関口新田	高橋	椎田	長友	外科
小児								水上	村上		村上	晶井
特診												

- カテーテル治療外来
- 不整脈専門外来
- 心不全外来
- 肥大型心筋症外来
- 高安静脈炎・心臓サルコイドーシス・免疫疾患外来
- 末梢血管外来
- 臨床遺伝外来
- 失神外来
- 禁煙外来
- 成人先天性心疾患外来(2025年度より)
- 漢方外来(2025年度より)

末梢血管外来枠および静脈瘤日帰り手術枠を増枠し、禁煙外来も再開した。また2025年度から不整脈専門外来の増枠、成人先天性心疾患外来および漢方外来の新設を予定し、準備をすすめた。

(2) 榊原記念病院との連携 (入院)

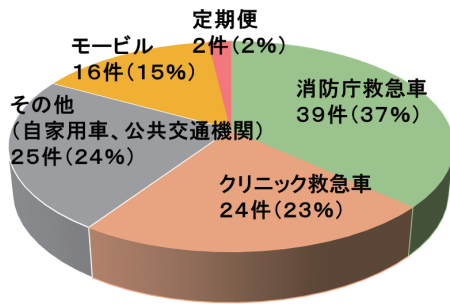
榊原記念病院への入院内訳



榊原記念病院への入院のうち15%が緊急入院である。予定入院を含めた総件数は横ばいである。

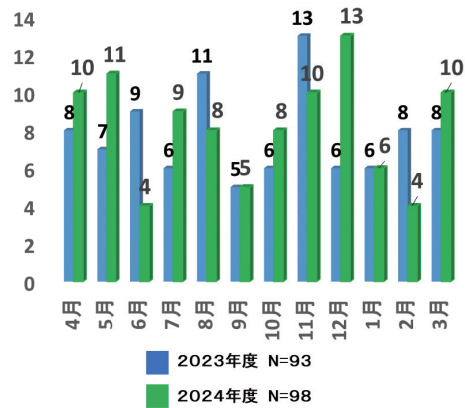
(2) 榊原記念病院との連携（緊急入院）

救急搬送手段



救急患者の90%は榊原記念病院の救急外来受診とし、そのうち92%は救急搬送している。搬送手段として病院救急車、モバイルCCU、定期便で40%を占めている。

救急搬送件数



(2) 榊原記念病院との連携

看護師（常勤6名）
 植込み型不整脈デバイス認定士：3名
 循環器病予防指導士：2名

看護業務

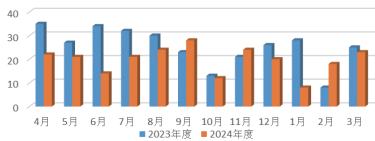
- ・問診聴取 / 入院オリエンテーション
- ・救急患者対応
- ・日帰り手術介助
- ・患者支援

- ・生活習慣病・虚血性心疾患再発予防・心不全セルフケア支援
- ・地域包括支援センターとの連携
- ・心臓デバイス植込み患者の遠隔モニタリングシステム関連
 毎日送信データ確認及び未送信患者への連絡
 臨時送信やアラート送信時の患者連絡と対応
- ・電話相談対応・患者からの有症状時の相談



テレナーシング

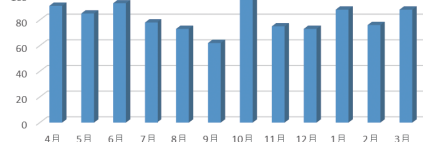
電話相談件数



自己注射指導件数



遠隔モニタリング加算件数



(3) 地域連携

近隣との連携

近隣医療機関との連携

・渋谷区代々木への移転に際して、病院と協力して新たにパンフレットを作成し、院長、副院長、センター長、事務長、連携担当で各医療機関、検診センター、クリニックを訪問し、直接対面により『榊原記念病院附属クリニック』のご紹介を行った。

医師会との連携・協力

・新宿区医師会の会員として、夜間診療および休日診療に協力した。
 ・2024年12月からは渋谷区医師会に入会。
 2025年夏以後、夜間診療および休日診療に協力する予定であり、また医師会の『糖尿病・循環器連携委員会』の委員として協力する予定である。

共催セミナーの開催

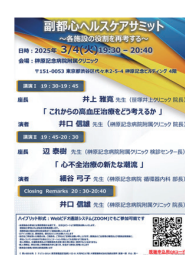
・製薬会社にご協力いただき、共催セミナーを開催した。
 2025年3月には当院会議室を利用して行い、近隣の先生方にもご参加いただいた。



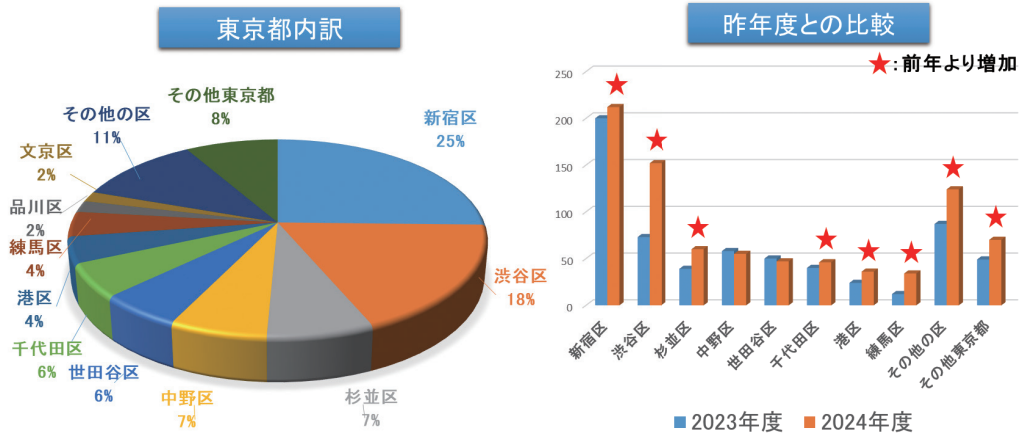
2025年3月当院会議室にて



病院との合同パンフレット

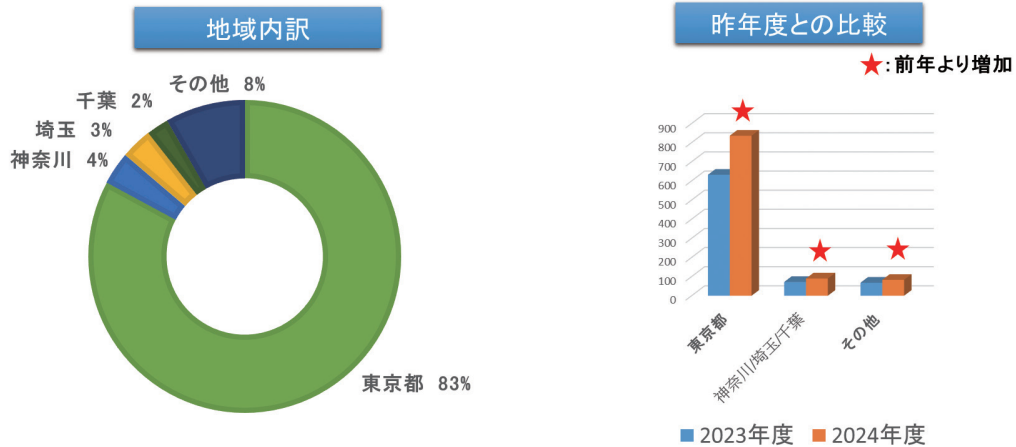


紹介元の内訳



紹介元は新宿区、渋谷区、杉並区で半数を占めるが、昨年よりも大幅に増加し、渋谷区は約2倍となった。

紹介元の内訳



紹介元の83%が東京都内であり、2割は都外からである。いずれも昨年度よりも増加している。

(4) 循環器疾患予防の啓発活動

出張講座

社会貢献活動として、2022年度から地域の高齢者コミュニティに出向いて、出張講座を行っている。今年度も引き続き、虚血性心疾患や弁膜症などの心疾患についての講演を通じて、循環器疾患予防の啓発活動を行った。テーマは事前にヒアリングして準備した



ささえーる中落合
2025.1.20



四谷保健センター
2025.2.10

(5) 学会活動の実績

学会発表・論文・書籍

学会発表

医師	井口信雄	Dual source CT の進化が切り開く新たな循環器イメージング	中国四国ライブ in 倉敷2025	2025/2/22	倉敷市芸文館
医師	井口信雄	シンポジウム『連合弁膜症の重症度評価と治療戦略』	日本超音波医学会シンポジウム	2025/6/1	横浜国際会議場
看護部	上戸ゆず	日帰りICM植込み手術を施行後、地方滞在中に遠隔モニタリングで非持続性心室頻拍を検出し現地で早期受診に繋がった一症例	日本不整脈心電学会春季大会	45402	大分県
看護部	長町千里	植込み型心臓不整脈デバイス認定士制度部会	第70回日本不整脈心電学会学術集会	45491	石川県
検査科	前田知子	How to session 2 心肺運動負荷試験編	第30回日本心臓リハビリテーション学会	2024/7/13	神戸国際会議場
検査科	前田知子	JHC-JARET-JACR 共催特別企画 / 認定NPO法人ジャパンハートクラブの理念とその20年の歩み	第30回日本心臓リハビリテーション学会	2024/7/13	神戸国際会議場
検査科	前田知子	運動負荷・心臓リハビリ	第72回日本心臓病学会学術集会	2024/9/29	仙台国際センター
検査科	前田知子	CPX セミナー1「検査中どこに着目してる？」	第9回日本心臓リハビリテーション学会関東甲信越地方会	2024/11/9	昭和大学上條記念館
検査科	前田知子	共同演者：心肺運動負荷試験（CPX）指標の基準値の検討	第61回日本臨床生理学会総会	共同演者：心肺運動負荷試験（CPX）指標の基準値の検討	東京都中央区 KABUTO ONE HALL & CONFERENCE

学会発表

医師	編集：井口信雄	監修：磯部光章	心アミロイドーシス 病態と治療、画像診断の最前線	書籍	ライオンサイエンス出版	2025年3月10日
医師	辺泰樹	井口信雄、廣川愛美、高良綾子、薄井秀美、土田みどり	循環器外来診療におけるアップルウォッチの多誘導心電図記録の有用性について	心臓	2024 : 56 (4)	368-375

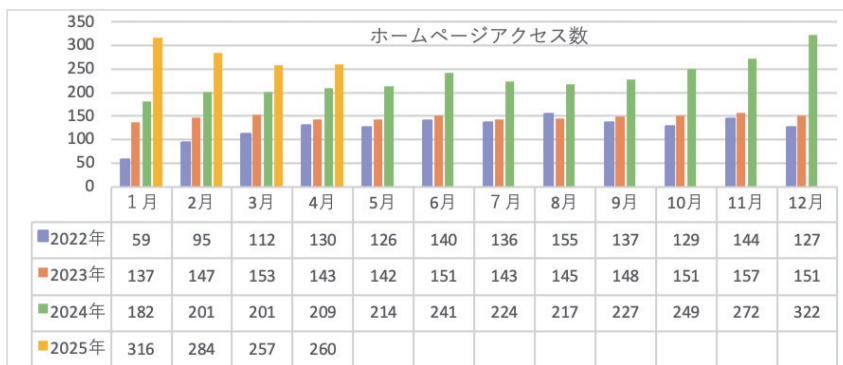
2. 積極的な広報展開

(1) 医療機関向け広報誌

- 年2回（春・秋）、定期的に刊行して、新宿区・渋谷区・中野区など近隣の医療機関に送付している。

(2) ホームページ

- 2021年10月にリニューアルするとともに広報担当者を配置して、常に見直しを行っている。
- アクセス数はリニューアル直後より、常にほぼ右肩上がりで増加している。

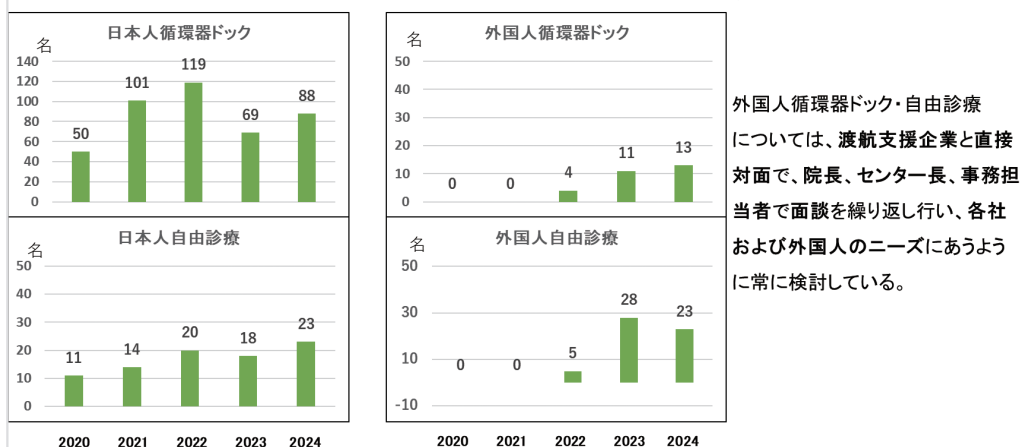


3. 検診センター

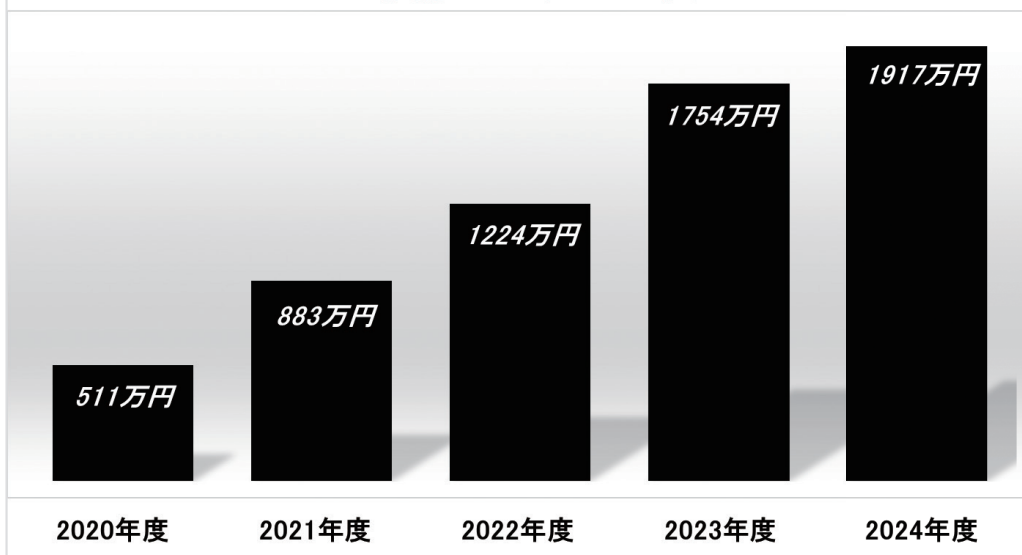
検診センターの新たな取り組み

- 2024年12月渋谷区代々木に榊原記念病院附属クリニックが新たに移転開院した。転院に伴い榊原記念クリニック分院検診センターは閉院となった。
- 分院閉院に伴い、榊原記念病院附属クリニックの中で自由診療を担当する部門として検診センターという名称のもと業務を引き継いだ。
- 榊原記念病院附属クリニックでの自由診療部門の診療体制を新たに再構築して診療を継続開始した。
- 医療渡航支援企業を新たに追加して外国人自由診療の拡大を目指すこととした。また医療相談という業務も新たに追加し、ホームページ内で紹介した。

検診センター診療内容別受診者数



検診センター全収益



検診センターまとめ

今年度は分院検診センター閉院に伴い、過去5年間の実績を比較検討した。結果は前述のスライドの通りである。

日本人循環器ドック受診者数は2023年4月より当クリニックと契約していた企業循環器ドックの契約解除により、2022年度63名いた企業循環器ドック受診者が2023年度は0名となったため、2023年度は大幅に減少した。しかし、その後徐々に受診者数は回復し、日本人循環器ドックの収益としてはこの5年間で最高益となった。日本人セカンドオピニオン数、外国人循環器ドック人数も昨年度より増加した。

一方外国人循環器ドックや外国人自由診療は2022年度から再開し、2023年度は順調に受診者数、収益ともに増加していたが、2024年度は外国人循環器ドック、外国人自由診療数ともに収益としては減となっている。

このような結果の中で、2024年度の検診センターの総収入としては、2023年度と比較して109%の増収となった。今後も日本人循環器ドックの受診者数増加は重要であるが、外国人循環器ドックや外国人自由診療については広報を積極的に行い、受診者数増加に努めて行く方針である。

榊原記念病院附属クリニックの開院

2024年12月1日

旧榊原記念病院跡地に建設された榊原記念ビルディング内に『榊原記念病院附属クリニック』と名称変更して開院いたしました。



内覧会 (2024年11月30日)



開院式 (2024年12月1日)



榊原記念病院附属クリニックの概要

1F

ラウンジ

総合受付・薬局
エントランスホール

《 総合受付 / 待合 》



《 掲示板 》



《 薬局 》



2F

診察室

診察室・ナースステーション
予約・会計・処置室

《 待合 》



《 受付 》



《 ナースステーション 》



《 診察室 》



《 処置室 》



3F

検査室

検査室
X線 / 心電図 / 採血 / 採尿 / 運動負荷 / エコー
特別診察室

《 X線室 》



《 運動負荷室 》



《 特別診察室 》



《 心エコー室 》



《 採血室 》



4F および榊原記念ビルディング内の連携

4F スタッフフロアー

《 会議室 》



《 ラウンジ 》



(C) 研究所・研修所 (所長：研究委員 細田徹)

テーマ	戦略	成果
【研究所】 研究体制の 見直し	<ul style="list-style-type: none"> ○臨床研究 <ul style="list-style-type: none"> ・啓蒙・啓発・教育 ・研究立案支援 ・学会主導レジストリ ○情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの利用 ・研究成果発表 ・業績データ管理 ・業績集発刊 ○研究費 <ul style="list-style-type: none"> ・研究費獲得に向けた啓発 ・榊原院内研究助成の推進 ・非常勤研究員制度の推進 ・J K A 補助事業活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・財団職員の研究活動を支援する榊原院内研究助成について、春に一次募集、秋に二次募集を実施した。また記念病院に勤務実績のある外部医師を非常勤研究員として採択した。 ・5月から12月の毎週、財団内を対象とするセミナーとして、榊原院内研究助成対象者及び非常勤研究員による計画発表会、並びに各部署から最新の話題を提供頂く「榊原トピックス」を放映した。 ・統計解析や学会発表等に関するオリジナル講義動画を財団職員向けにオンデマンドで発信し、研究活動を多面的に支援した。 ・多職種からなる研究推進委員の間でSlackのプラットフォームを共有し、最新の知見や研究遂行上の課題、講演会や研究費の公募等の情報を随時オンラインで共有した。 ・従来からの学会主導レジストリを継続して実施した。ホームページで財団職員の研究業績を公表し、また従来は紙で提示していた財団内で実施中の研究を全てウェブ上で公表する準備を進めている。 ・J K A 補助事業に新規の応募をしたが、次年度（2025）は競争が激しく、採択されなかった。

<p>【研修所】 研修体制の統 括運営</p>	<p>○情報発信 ・ホームページの利用 ○職員・院外講習会運営の支 援</p>	<p>・財団職員を対象とする種々の研修動画をオンデマンドで提供し、新規・中途入職者を含めて継続的な教育・研修を可能とする体制を維持している。 ・従来、部署毎に個別に管理されていた職員の教育・研修計画を、教育研修委員会において一括管理する体制を構築した。 ・ボストン小児病院、及び全米の医療機関でスタッフとして活躍する日本人医師の協力を得て、全国の小児循環器医師及びコメディカルを対象とするセミナーシリーズを米国夏時間に合わせて毎月実施しており、毎回 100 名程度に視聴登録を頂き、高評価である。</p>
---------------------------------	--	--

5. 理事会・評議員会

(A) 2024年4月25日（木）午後1時30分より WEB 会議システムによる評議員選定委員会を開催。監事1名、外部委員2名が出席し、次期評議員の選任を行った。

(B) 2024年6月6日（木）午後1時30分より WEB 会議システムによる理事会を開催。理事現在数19名のうち出席15名、監事2名出席。

報告事項1. 業務執行状況報告・財団本部及び臨床研究施設の運営状況

報告事項2. 評議員追加選任の件

報告事項3. 理事の任期更新の件「次期理事（案）」（評議員会議案）

報告事項4. 人事関係

報告事項5. 2024年度公募研究採択の件

第1号議案 「2023年度事業報告書ならびに貸借対照表及び正味財産増減計算書等承認の件」

第2号議案 「評議員会開催の件」

(C) 2024年6月26日（水）午後1時30分より WEB 会議システムによる評議員会を開催。評議員現在数13名のうち出席8名、監事出席なし。

報告事項1. 業務執行状況報告・財団本部及び臨床研究施設の運営状況

報告事項2. 評議員追加選任の件

報告事項3. 人事関係

第1号議案 「2023年度事業報告書ならびに貸借対照表及び正味財産増減計算書等承認の件」

第2号議案 「理事の任期更新の件「次期理事（案）」

(D) 2024年7月4日（木）午後1時30分より WEB 会議システムによる理事会を開催。理事現在数18名のうち出席15名、監事2名出席。

第1号議案 「代表理事・業務執行理事（専務理事・常務理事）選任の件」

(E) 2024年9月11日（水）午後1時30分より WEB 会議システムによる臨時理事会を開催。理事現在数18名のうち出席16名、監事2名出席。

報告事項1. 業務執行状況報告・財団本部及び臨床研究施設の運営状況

- 第1号議案 「2025年度（公財）JKA 補助金交付要望書提出の件」
- 第2号議案 「内部通報に関する規定制定の件」
- 第3号議案 「評議員会開催招集の件」

(F) 2024年9月26日（木）午後1時30分より WEB 会議システムによる臨時評議員会を開催。評議員現在数14名のうち出席10名、監事1名出席。

- 報告事項1. 業務執行状況報告・財団本部及び臨床研究施設の運営状況
- 第1号議案 「内部通報に関する規定制定の件」

(G) 2025年3月12日（水）午後1時30分より WEB 会議システムによる理事会を開催。理事現在数18名のうち出席13名、監事2名出席。

- 報告事項1. 業務執行状況報告・財団本部及び臨床研究施設の運営状況
- 報告事項2. 人事関係
- 第1号議案 「2025年度事業計画書ならびに収支予算書承認の件」
- 第2号議案 「2025年度医療機器等の更新・購入資金調達計画」
- 第3号議案 「緊急借入金枠（特別当座貸越）契約更新の件」
- 第4号議案 「事務局長、監理部長の任期更新の件」
- 第5号議案 「評議員会召集の件」

(H) 2025年3月27日（木）午後1時30分より WEB 会議システムによる評議員会を開催。評議員現在数14名のうち出席8名、監事1名出席。

- 報告事項1. 業務執行状況報告・財団本部及び臨床研究施設の運営状況
- 報告事項2. 人事関係
- 第1号議案 「2025年度事業計画書ならびに収支予算書承認の件」
- 第2号議案 「2025年度医療機器等の更新・購入資金調達計画」

6. 寄附関係

当会の目的、事業にご賛同の方々から、多額のご寄付を頂きまして誠に有り難うございました。お陰様で、臨床研究施設に緊要な設備を整えることができました。

2025年度に開催予定の学会、シンポジウム等も準備を進めております。また、当会に基礎をもつ研究会も所期の業績をあげております。

ご寄附、ご後援を賜りました皆様に謹んで御礼申し上げます。（ご芳名 下段に掲載、順不同、敬称略）

2024年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しません。

※事業報告書内の所属・肩書は、2025年3月31日付のものを記載しています。